

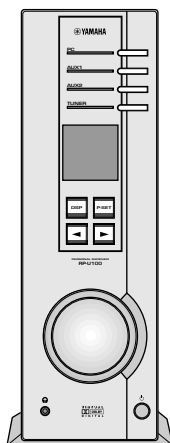


マルチメディアアンプ

RP-U100

取扱説明書

このたびは、ヤマハマルチメディアアンプRP-U100をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
RP-U100の優れた性能を十分に活用し、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前によくお読みください。
お読みになった後は、保証書とともに保管してください。



本機は必ず縦置きで
ご使用ください。



保証書の手続きについて

お買い求めの際は、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店名、購入日などの記載がないと、たとえ保証期間中でも、サービスが必要な場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

ご使用の前に必ずお読みください。

お使いになる前に

RP-U100の説明

各部の名称とはたらき

接続のしかた

操作のしかた

アプリケーションソフトウェア

その他

目次

お使いになる前に

RP-U100の説明

各部の名称とはたらき

接続のしかた

操作のしかた

アプリケーションソフトウェア

その他

主な特長	3
安全上のご注意	4
付属品の確認	8
RP-U100の説明	9
RP-U100の基本機能	9
バーチャル3Dについて	10
音場プログラムについて	10
各部の名称とはたらき	11
フロントパネル	11
リアパネル	12
接続のしかた	13
コンピュータとの接続（USB端子）.....	13
コンピュータとの接続（デジタル）.....	13
コンピュータとの接続（アナログ）.....	14
外部オーディオ機器との接続（アナログ）.....	14
外部オーディオ機器との接続（デジタル）.....	15
スピーカとの接続	16
セットアップ例	17
アンテナの接続	18
FMアンテナの接続	18
AMループアンテナの組立と接続	18
ディスプレイの見方	19
再生のしかた	20
音場プログラムの効果をかける	21
録音する	22
ラジオを聴く	23
マニュアル選局	23
オート選局	24
プリセット選局を使う	25
放送局をマニュアル登録する	25
放送局をオート登録する（オートプリセット機能）.....	26
登録した放送局を呼び出す	27
登録した放送局をコピーする	27
付属のアプリケーションソフトウェアについて	28
動作環境	28
インストールと確認	29
使用方法について起動とヘルプファイル参照	29
故障かな？と思ったときは	34
仕様	37
ユーザーサポートシート	38
USB関連製品サポート窓口のご案内	39

主な特長

パソコンのオーディオ環境をグレードアップ

アンプ、チューナ、インプットセクターの各機能に加え、PQ(パーソナルコンピュータ)と接続可能なUSB(Universal Serial Bus)端子を標準装備。PC側から本機の機能をコントロールしたり、PCから出力されるサウンドをアレンジするなど、新しい楽しみ方を提案する新感覚マルチメディアアンプです。

バーチャルドルビーデジタル*対応

本来4本以上のスピーカが必要なサラウンド効果(DOLBY PRO LOGICやDOLBY DIGITALなど)を、擬似的に2本のスピーカで実現する“バーチャル3D”(10ページ参照)技術を採用。本機と2本のスピーカで、臨場感あふれるサウンドが楽しめます。

新開発“ヤマハ・ニアフィールド・シネマDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)”を搭載

入力ソースに多彩な効果を付ける音場プログラムを搭載。世界の著名なコンサートホールの音場や、本格的なシアターサウンドをデスクトップで楽しめます。

多彩な入出力端子

アナログ、デジタル(COAXIAL/OPTICAL)、パソコンのUSB端子に対応する多彩な入出力端子を装備。PCのサウンド出力、CDプレーヤー、DVDプレーヤー、MDレコーダーなどのオーディオ機器のコントロールセンターとして活用できます。



音楽を楽しむエチケット

これは日本電子機械工業会

「音のエチケット」

キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

「Dolby」、 「Pro Logic」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

安全上のご注意

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この「安全上のご注意」に書かれている内容は、安全にご使用いただくためのAV製品全般のご案内でお客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。



分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

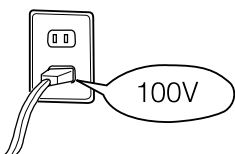


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない

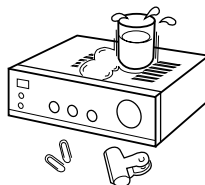


火災・感電の原因となります。

本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



水を入れたり、ぬらさない

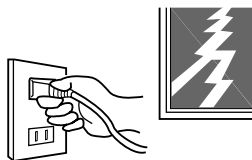


火災・感電の原因となります。

本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。



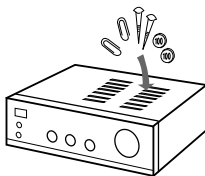
雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。



通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない

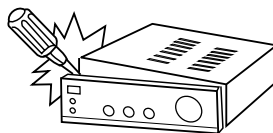


火災・感電の原因となります。

特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。



分解・改造を絶対しない(キャビネットをはずすことも含む)



火災・感電の原因となります。

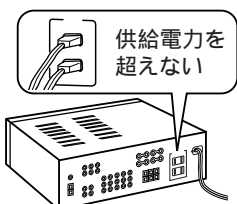
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ⊘ 供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない

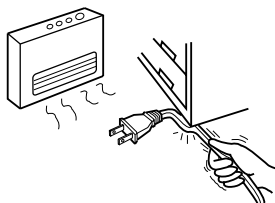


火災の原因となります。

接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱機具、ヘアドライヤー、電磁調理機器など）は接続しないでください。

- ⊘ 電源コード・プラグを破損するようなことをしない

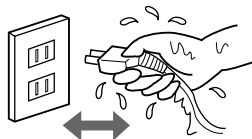
（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っばる、束ねる、重いものをのせるなどしない）



火災・感電の原因となります。

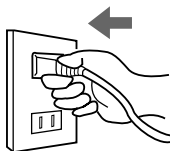
コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

- ⊘ 濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

- ❗ 電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っばらないでください。

傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

- ❗ 電源プラグのほこりなどは定期的にとる

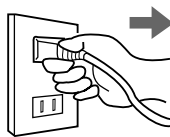


プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。



- ❗ 機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

安全上のご注意(つづき)

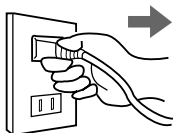


警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



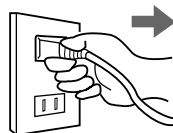
煙が出たり変なおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

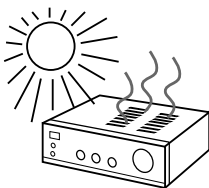


注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



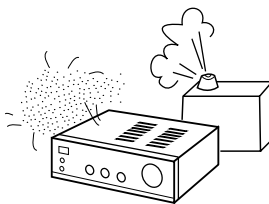
直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。



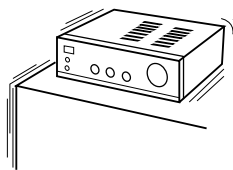
湿気やほこりの多い場所に置かない



火災・感電の原因となります。



振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。



通風孔をふさがない



通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。

テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。



放熱をよくするために他の機器との間は
少し離して置く

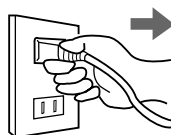
本機 (RP-U100) は必ず縦置きで使用する



火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、側面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。



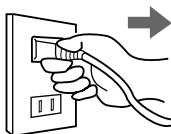
各機器を接続する場合は電源プラグを
抜き、説明に従って接続する



各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。



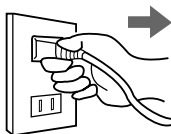
移動するときは電源スイッチを切り、必ず
電源プラグを抜き、外部の接続コードを
外す



コードが傷つくと火災・感電の原因となります。



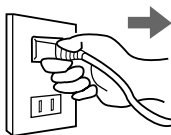
お手入れの際は、安全のため電源プラグを
抜く



感電の原因となります。



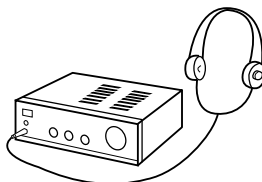
長期間使わないときは、必ず電源プラグを
抜く



火災の原因となることがあります。



ヘッドフォンを使うときは、音量を上げず
ぎない



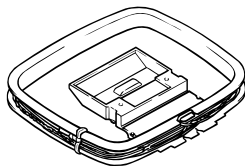
大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

付属品の確認

操作を始める前に、以下の付属品がすべて揃っているかどうかをご確認ください。

AMループアンテナ

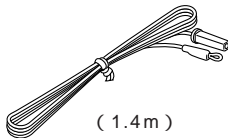
AM放送を受信するための室内アンテナです。



(1.2 m)

FM簡易アンテナ

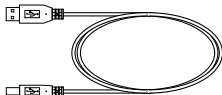
FM放送を受信するための簡易アンテナです。電波状況が非常に良好な地域で、お使いいただけます。



(1.4 m)

USBケーブル

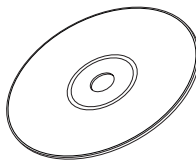
パーソナルコンピュータと本機を接続するためのケーブルです。



(2.0 m)

CD-ROM

本機の機能をコンピュータ側からコントロールするアプリケーションソフトウェア、およびアプリケーションソフトウェアの操作方法を説明するヘルプファイルを含むCD-ROMです。これらのソフトウェアをご利用になるには、Windows98に対応し、USB端子を備えたコンピュータが必要です(詳しい動作条件は28ページをご参照ください)。



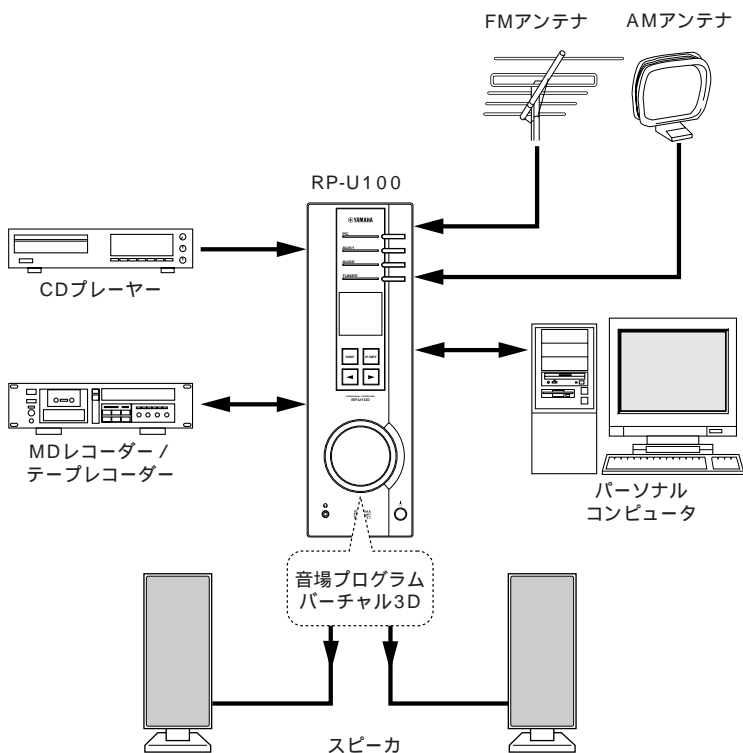
RP-U100の説明

ここでは、RP-U100の基本機能や、操作する前に知っておくと便利なことからについて、説明します。

RP-U100の基本機能

RP-U100は、PCのサウンド出力、CDプレーヤー、内蔵チューナ(FM/AM)など、さまざまなオーディオ信号の中から入力ソースを選択し、DSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)による音場効果を加えて、スピーカから再生するマルチメディアアンプです。

RP-U100
の説明



RP-U100は、単体でもご活用いただけますが、USB端子を通じてPC(パersonalコンピュータ)と接続し、付属のアプリケーションソフトウェアを起動することで、PC側からRP-U100の機能をリモートコントロールしたり、音場プログラムやバーチャル3D効果のパラメータを編集することが可能となります。

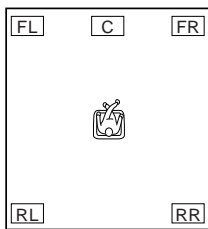
バーチャル3Dについて

従来のサラウンド効果(DOLBY PRO LOGIC、DOLBY DIGITAL)を再現するには、フロント(前)とリア(後)に合計4本以上ものスピーカを使用し、リスナーの前後に設置するためのスペースが必要でした。

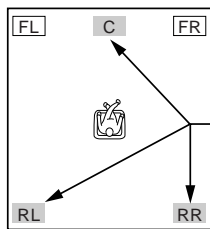
しかしRP-U100には、2本のスピーカで擬似的にサラウンド効果を再現する、ヤマハ独自の“バーチャル3D”技術が搭載されています。

フロントに2本のスピーカ(L・R)を設置するだけで、リスナーはリアの仮想スピーカを感じることができ、音像の良好な広がり感や、後方への移動感が得られます。

また、USB端子に接続したPCと付属のアプリケーションソフトウェアを使って、バーチャル3Dのパラメータを編集することも可能です。



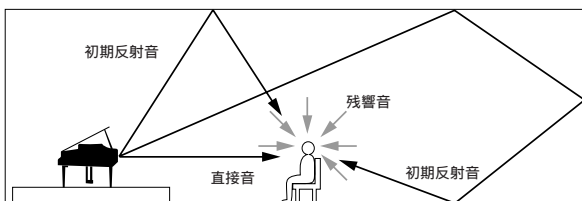
従来のサウンドシステム



バーチャル3D

音場プログラムについて

私たちがコンサートホールやライブハウスで演奏を聴く場合、音源(楽器音、歌手の声、場内スピーカからの再生音など)から直接聴こえてくる“直接音”の他に、床、壁、天井に一度反射してから聴こえる“初期反射音”、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰していく“残響音”を聴いていることになります。



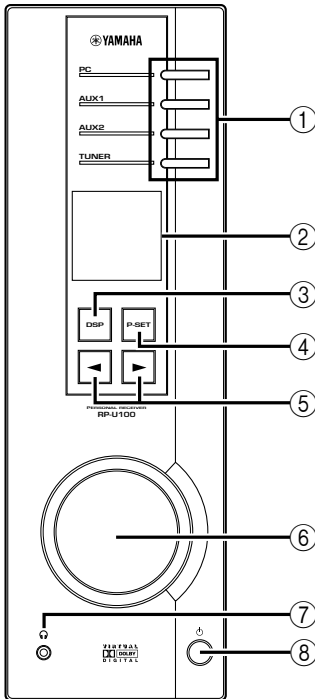
初期反射音や残響音の聴こえ方は、建物の形状や広さ、さらに壁や天井の素材に応じて異なるため、会場ごとに特有の響きが生まれます。このように、その空間が持つ特有の響きを“音場”と呼んでいます。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスで測定された反射音の方向、強さ、帯域特性、遅延時間などの情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。RP-U100には、これらの実測データを基に音場を再現するヤマハDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)が搭載されており、入力ソースにさまざまな音場プログラムの効果をかけることができます。

例えばCDプレーヤーでバロック音楽を聴くときは修道院の音場を再現する“CHURCH”、パソコンでゲームを楽しむときはゲームサウンドに奥行きと迫力を加える“GAME”という具合に、入力ソースに応じた音場プログラムをお楽しみいただけます。また、USB端子に接続したPCと付属のアプリケーションソフトウェアを使って、音場プログラムのパラメータ(音場の響きを決定する構成要素)を編集することも可能です。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



インプットセクター部

次の4つのキーを使って、RP-U100で再生する入力ソースを選択します。現在選ばれているソースに応じて、キーの左側にあるLEDが点灯します。

PCキー

入力ソースとして、リアパネルのPC IN端子(同軸、光、アナログ)またはUSB端子に接続されたPCのオーディオ出力を選択します。また、すでにPCが選ばれているときは、このキーを使ってUSB、デジタル、アナログの入力端子を切り替えます。

AUX1キー

入力ソースとして、リアパネルのAUX 1 IN端子(アナログまたはデジタル)に接続された外部機器を選択します。アナログ/デジタルの両方の端子にオーディオ機器が接続されているときは、デジタルの端子が優先されます。

AUX2キー

入力ソースとして、リアパネルのAUX 2 IN端子(アナログのみ)に接続された外部機器を選択します。

TUNERキー

入力ソースとして内蔵チューナ(FM/AM)で受信した信号を選択します。また、すでにチューナが選ばれているときは、このキーを使ってFM(オートステレオ)、FM(モノラル)、AMのバンド切り替えを行います。

ディスプレイ

現在選ばれている入力ソースの種類、音場プログラム、その他の設定状態などが表示されるディスプレイです。

DSPキー

内蔵DSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサ)による音場プログラムの効果のオン/オフを切り替えるキーです。オフにすると通常のステレオ再生になります。

P-SET(プリセット)キー

チューナの選局方法として、次の2つのモードの中からいずれか一方を選択するキーです。また、放送局の登録の際にも使用します。

周波数表示モード

周波数を◀/▶(ダウン/アップ)キーで変化させて選局します。ディスプレイには周波数が表示されます。

プリセットチューニングモード

あらかじめ登録された放送局の中から選局します。ディスプレイには、プリセット局を表すA~Eのグループ(プリセットページ)と1~8の番号(ステーションナンバー)が表示されます。このキーは、入力ソースとして内蔵チューナが選ばれている間のみ、有効です。

◀/▶(ダウン/アップ)キー

音場プログラムの切り替え、およびチューナの周波数切り替えやプリセット局の番号選択を行うキーです。

各部の名称とはたらき(つづき)

ボリュームダイヤル

RP-U100の出力ボリュームを調節するダイヤルです。電源がオフのときは、ボリュームを調節することはできません。

ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続するステレオミニ端子です。

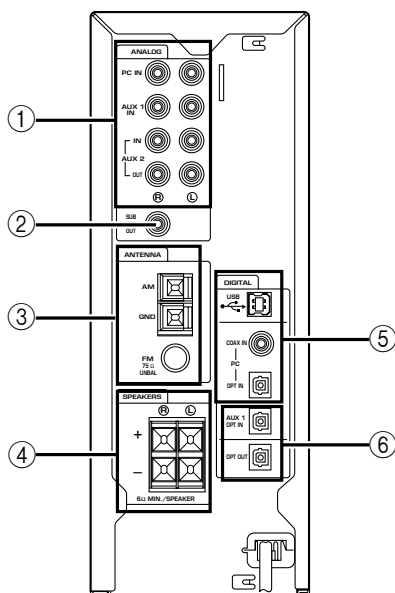
ご注意

ヘッドフォンをこの端子に接続してDSPをオンにすると、入力信号にヘッドフォン用のバーチャル効果を加えられます。スピーカから音を聴きたいときは、ヘッドフォンをこの端子から抜いてご使用ください(21ページ参照)。

電源スイッチ(⬇)

RP-U100の電源のオンとスタンバイモードを切り替えるスイッチです。

リアパネル



オーディオ入出力部(アナログ)

コンピュータのサウンドボード、CDプレーヤー、MDレコーダーなどのオーディオ機器(アナログ)を接続します。

サブウーファ出力端子

低音の補強用に、アンプ内蔵型のサブウーファ(YAMAHA YST-SW45など)を接続する端子です。

アンテナ接続部

AMアンテナやFMアンテナを接続する端子です(18ページ参照)。

スピーカ接続部

左右のメインスピーカ(専用スピーカNS-U50など)を接続する端子です。スピーカはインピーダンス6以上のものを使用してください(16ページ参照)。

PC接続部

USB: USBケーブルを使用してコンピュータ(Windows98対応の機種)に搭載されたUSB端子とこの端子を接続します。コンピュータと接続することで、RP-U100の内部設定をコンピュータ側からコントロールすることが可能となります。

PCオーディオ入力部(デジタル): コンピュータのサウンドボード/DVDデコーダーボードのデジタルオーディオ出力端子(同軸または光端子)を接続する端子です。

オーディオ入出力部(デジタル)

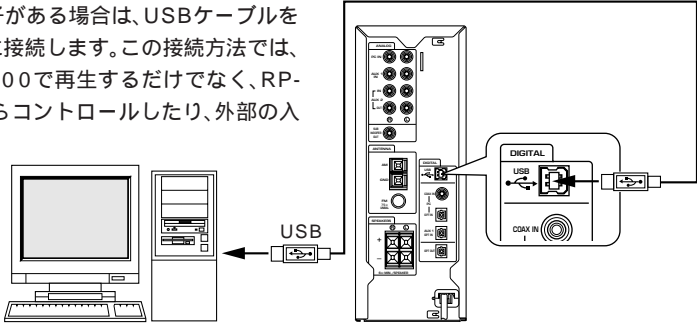
外部のデジタル機器を接続する端子です。AUX 1 OPT IN端子には、DVD/CDプレーヤー、MDレコーダーなど、入力ソースとなる外部機器のデジタルオーディオ出力(光端子)を接続します。OPT OUT端子には、MDレコーダーなど録音機器のデジタル入力(光端子)を接続します。

接続のしかた

ご注意 付属のアプリケーションソフトウェアをご使用になる場合は、インストールが完了するまではコンピュータと本機をUSB端子で接続しないでください(28ページ参照)。

コンピュータとの接続 (USB端子)

コンピュータにUSB端子がある場合は、USBケーブルを使って本機のUSB端子に接続します。この接続方法では、PCのサウンドをRP-U100で再生するだけでなく、RP-U100の機能をPC側からコントロールしたり、外部の入力ソースをUSBケーブルでPCに取り込むことも可能です。付属のCD-ROMにてインストールされるヘルプファイルに操作方法が説明されています。

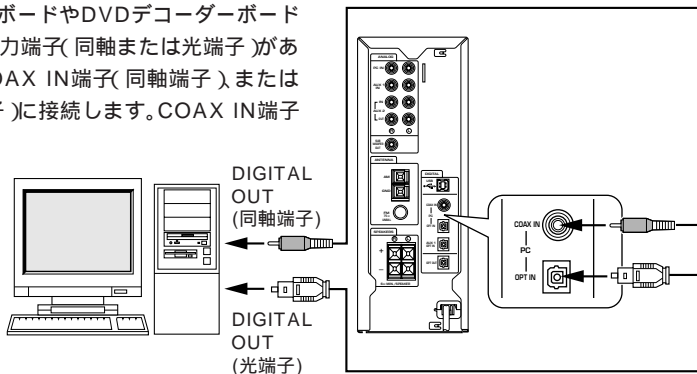


ご注意

コンピュータと本機を接続する場合、アナログ、デジタル(同軸または光端子のどちらか一方)、USBの各端子を同時に接続し、フロントパネル上で切り替えることができます。

コンピュータとの接続 (デジタル)

コンピュータのサウンドボードやDVDデコーダーボードにデジタルオーディオ出力端子(同軸または光端子)がある場合は、本機のPC COAX IN端子(同軸端子)、またはPC OPT IN端子(光端子)に接続します。COAX IN端子に接続する場合はピンプラグコード(市販)を使用し、OPT IN端子に接続する場合は光ファイバーケーブル(市販)を使用してください。



ご注意

PC COAX IN端子とPC OPT IN端子を同時に使用することはできません。両方の端子にデジタルオーディオ信号が入力された場合、優先的にPC OPT IN端子が選択されます。

本機のPC OPT IN端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

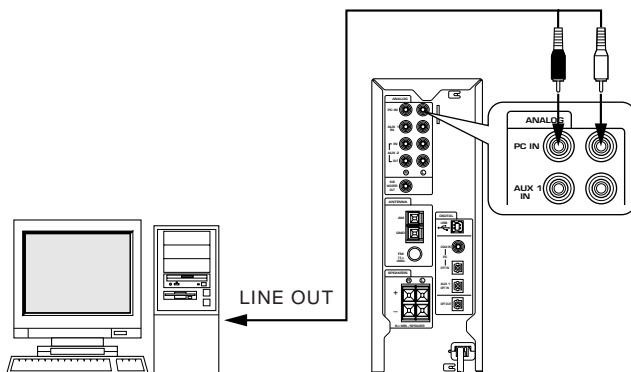
本機のPC COAX IN端子の接続には、デジタルオーディオ専用の同軸ケーブルをご使用ください。アナログオーディオ用のケーブルを流用すると、誤動作の原因となります。

接続のしかた(つづき)

コンピュータとの接続 (アナログ)

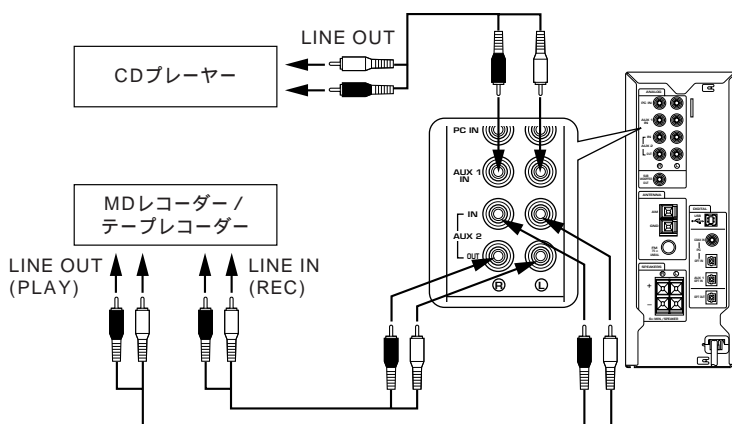
コンピュータ本体のオーディオ出力端子、またはサウンドボードのLINE OUT端子を、本機のPC IN端子と接続します。

接続にはピンプラグコード(市販)を使用します。右(R)チャンネルと左(L)チャンネル、入力と出力を混同しないようにご注意ください。



外部オーディオ機器との接続(アナログ)

右(R)チャンネルと左(L)チャンネル、入力と出力を混同しないようにご注意ください。

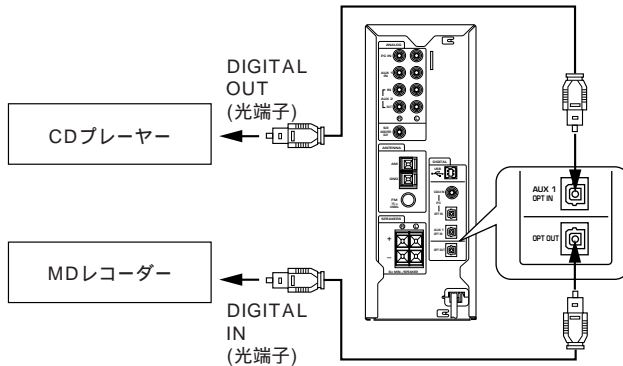


外部オーディオ機器との接続(デジタル)

オーディオ機器にデジタル入出力端子(光端子)がある場合は、外部機器のデジタル出力端子を本機のAUX 1 OPT IN端子に接続します。また、MDレコーダーやDATレコーダーを使って、本機に入力された信号をデジタル録音したい場合は、レコーダーのデジタル入力端子を本機のOPT OUT端子に接続します。

ご注意

OPT OUT端子からデジタル録音できるのは、USBを除くDIGITAL(デジタル)入力端子に入力された信号のみです。

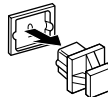


ご注意

AUX 1 IN端子(アナログ)とAUX 1 OPT IN端子(デジタル)を同時に使用することはできません。AUX 1 OPT IN端子にデジタルオーディオ信号が入力されていれば、自動的にデジタルオーディオ信号が優先されます。AUX 2 OUT端子(アナログ)とOPT OUT端子(デジタル)は同時に使用することが可能です。それぞれの端子から出力される信号の種類は、現在選ばれている入力ソースに応じて異なります(22ページ参照)。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、本機のOPT IN/OPT OUT端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。このキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合はホコリなどの侵入を防ぐために、必ずキャップを差し込んでください。

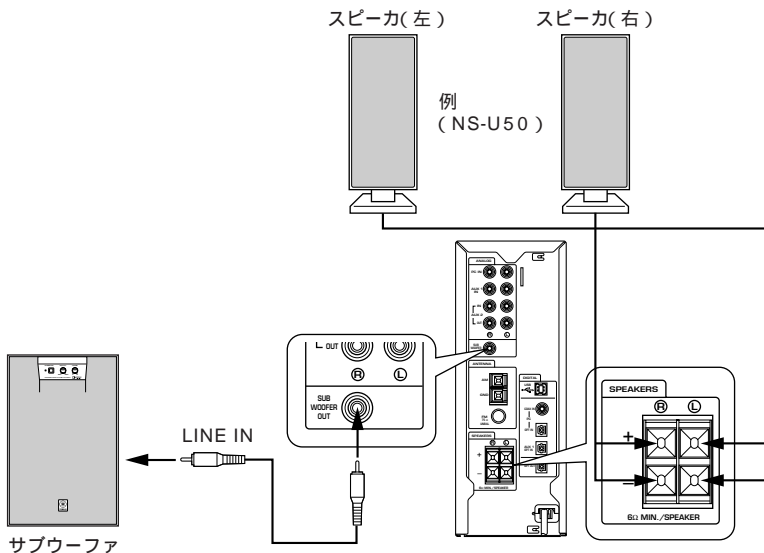


スピーカとの接続

スピーカを接続する場合は、左右のチャンネルや極性(+ / -)を確認し、正しく接続してください。極性を間違えて接続すると、再生音が不自然になることがあります。

インピーダンスは6 Ω以上のものを使用してください。

スピーカコードを接続するときは、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働いて電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードをコンセントから抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。



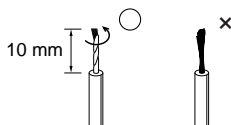
RP-U100は、2本のスピーカでさまざまな音場プログラムやサラウンド効果を再現できますが、さらにSUB WOOFER OUT端子にアンプ内蔵のサブウーファ(YAMAHA YST-SW45など)を追加すれば、迫力ある重低音がさらに楽しめます。

ご注意

SUB WOOFER OUT端子はラインレベルの出力端子です。必ずアンプ内蔵のサブウーファをご使用ください。

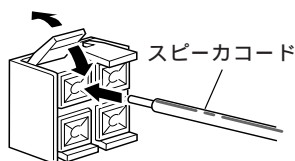
スピーカコードについて

スピーカコードの先端の絶縁部を10mmくらいはがし、芯線をしっかりとよじってください。芯線がばらけていると、ショートする原因になりますのでご注意ください。



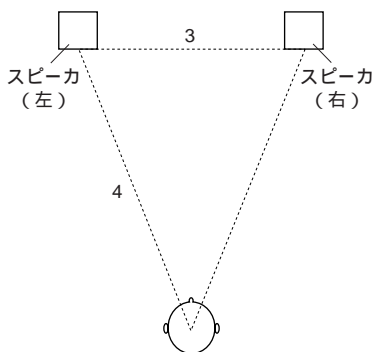
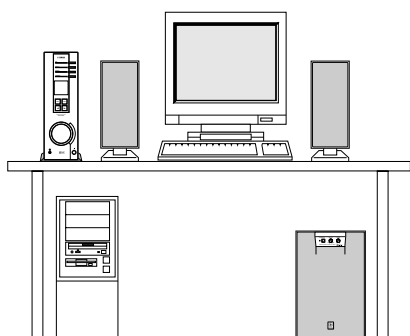
スピーカ端子について

スピーカ端子のレバーを倒し、端子の穴にスピーカコードの芯線を差し込んでからレバーを元に戻してロックします。コードを軽く引っ張ってみて、確実にロックされたかどうかを確認してください。



セットアップ例

2本のメインスピーカ(YAMAHA NS-U50など)をディスプレイの両側に、前面を揃えて設置します。音場プログラムやサラウンドの効果を最大限に発揮するために、左右のスピーカの距離とスピーカとリスナーの距離の比が3:4になるように設置することをおすすめします。場合によっては、本機とコンピュータ本体を離れた場所に置いてもよいでしょう。そして、アンプ内蔵のサブウーファ(YAMAHA YST-SW45など)は床に設置してください。



ご注意

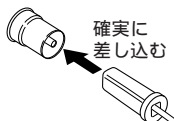
スピーカやサブウーファには、防磁処理された機種をご使用ください。防磁処理されていないスピーカをディスプレイの近くに置くと、画像が乱れたり、ディスプレイの故障の原因となることがあります。

アンテナの接続

FMアンテナの接続

FM簡易アンテナについて

付属のFM簡易アンテナは、電波状況が非常に良好な地域で受信する場合のみ、ご使用ください。



FM専用屋外アンテナについて

FM放送を良好な状態で受信するには、FM専用の屋外アンテナを設置することをおすすめします。なお、FM電波を受信する地域の状況(放送局から離れている、ビルや山の陰になっているなど)によっては、良好な受信ができにくい場合があります。その地域の状況にあったアンテナを設置してください。

また、FM屋外アンテナは、自動車のイグニッションノイズの影響を受けないように、道路から離れたなるべく高い位置に設置してください。

FM専用屋外アンテナの接続

アンテナの接続には75 同軸ケーブルをご使用ください。アンテナと本機が離れて設置されている場合は、伝送中の電波減衰が少ない5C2Vケーブルの使用をおすすめします。

VHFアンテナの使用について

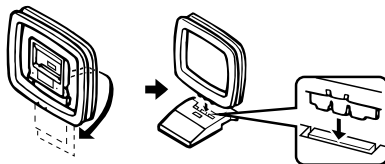
電波状況が非常によい地域では、テレビのVHFアンテナを本機のFM用アンテナとして使用できる場合があります。市販の分配器を使って、アンテナをテレビ受像機と本機の両方に接続します。詳しくは、分配器の取扱説明書をご参照ください。

ご注意

特に電波の強い地域(近くに放送局のある地域など)では、多素子のアンテナやブースター(増幅器)を使うと、電波が強くなりすぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

AMループアンテナの組立と接続

組み立て



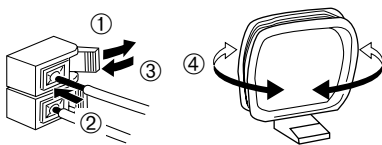
付属のAMループアンテナを本機のAM端子とGND端子に接続します。

本機のAM端子とGND端子のレバーを倒してください。

AMループアンテナのコードをAM端子とGND端子に差し込んでください(コードの2本の先端部分は、それぞれどちらの端子に差し込んでかまいません)。

レバーを元に戻して、ロックしてください。

アンテナを左右に回して、受信状態が最も良くなる方向に向けてください。



ご注意

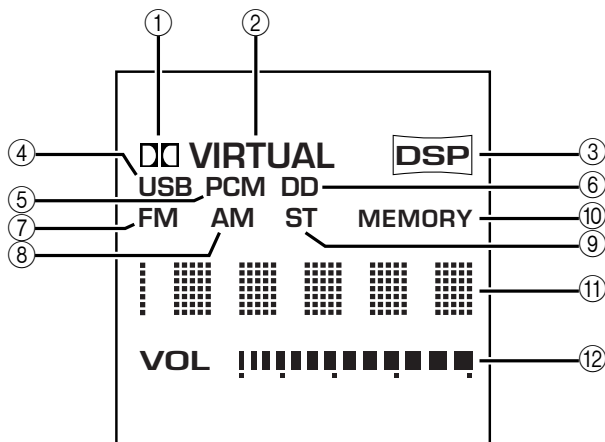
AMループアンテナは、本機から離れた位置に設定してください。

AMループアンテナで良好な受信ができない場合は、本機のAM端子に5m～10mのビニール被覆線を接続し、窓を通じて野外に張ってください(このとき、AMループアンテナも必ずAM端子に接続しておいてください)(36ページ参照)。

PCと本機とが近すぎて雑音が生じることがあります。その場合PC及び本機を離して使用してください。

ディスプレイの見方

RP-U100の電源がオンのとき、ディスプレイの表示で本機の動作状態を確認できます。ここでは、ディスプレイの見方について説明します。



DOLBYマーク(DD)

ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックデコーダーが動作し、バーチャルドルビーデジタル処理またはバーチャルドルビーサラウンド処理を行っているときに点灯します。MOVIE、LIVE、GAME、VDDのプログラムを選んでいるときは、入力ソースに関係なく点灯します(ヘッドフォン使用時は常に消灯します)。

VIRTUAL

バーチャル3D処理を行っているときに点灯します。

DSP

入力信号に対して、DSP音場効果がかかっているときに点灯します。

USB

USB端子経由でオーディオ信号を入出力しているときに点灯します。

PCM

入力ソースとして、PCMのデジタルオーディオ信号が選ばれているときに点灯します。

DD(DOLBY DIGITAL)

入力ソースとして、DOLBY DIGITAL方式によりエンコードされたデジタル信号が選ばれているときに点灯します。

FM

入力ソースとして内蔵チューナが選ばれていて、選択バンドがFMのときに点灯します。

AM

入力ソースとして内蔵チューナが選ばれていて、選択バンドがAMのときに点灯します。

ST(STEREO)

ステレオのFM放送を受信しているときに点灯します。

MEMORY

放送局をメモリーに登録するときに点滅します。

数値 / アルファベット表示部

現在操作している内容に応じて、数値やアルファベットを表示します。

VOL(ボリューム)

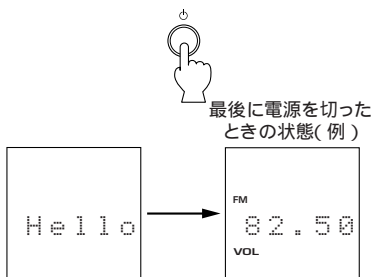
本機のボリュームレベルを表示します。

再生のしかた

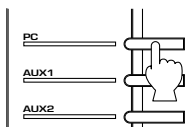
ここでは、入力ソースを選んで、スピーカから再生する方法について説明します。

- 1 周辺機器 本機の順に電源を入れてください。

ディスプレイに「Hello」としばらく表示された後で、最後に電源を切ったときの状態が呼び出されます。



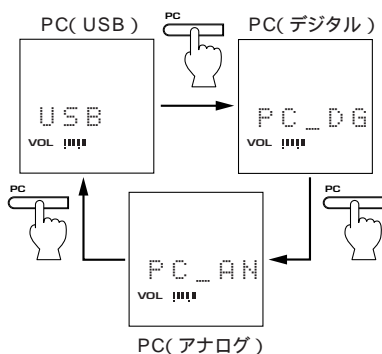
- 2 インプットセクターのキーを押して、再生する入力ソースを選択してください。



PCキー

リアパネルのPC IN端子(アナログ)、PC COAX IN端子 / PC OPT IN端子(デジタル)、USB端子に接続されたPCのサウンド出力を再生します。

PCキーを押すたびに、USB デジタル アナログが順に切り替わります。



AUX1キー

AUX 1 IN端子(アナログ)またはAUX 1 OPT IN端子(デジタル)に接続されたオーディオ機器を再生します。



AUX2キー

AUX 2 IN端子(アナログ)に接続されたオーディオ機器を再生します。



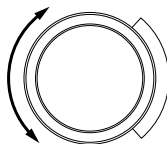
TUNERキー

内蔵チューナで受信したFM / AM放送を再生します。



- 3 入力ソースの再生を始めてください。
内蔵チューナの選局方法は、23ページをご参照ください。

- 4 ボリュームダイヤルを調節してください。



ご注意

入力ソースとしてPC、AUX1、AUX2を選んだときは、上記のように入力ソース名がディスプレイ上にしばらく表示された後で、現在選ばれている音場プログラムの表示に変わります。なお、この入力ソース名は、付属のアプリケーションソフトウェアを使って変更することが可能です。詳しくはアプリケーションソフトウェアのヘルプファイルをご参照ください。

音場プログラムの効果をかける

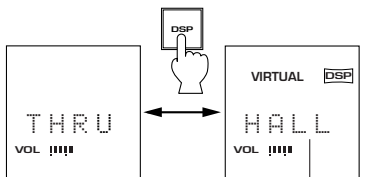
本機には、コンサートホールや映画館のような残響や臨場感を再現するDSP(デジタルサウンドフィールドプロセッサー)が搭載されています。7種類の音場プログラムの中から、再生するソースに最適なプログラムを選び、臨場感や迫力のあるサウンドをお楽しみいただけます。

本機と周辺機器の電源を入れ、再生する入力ソースを選択してから、操作します。

1 DSPキーを押してください。



ディスプレイ上で、現在選ばれている音場プログラムの名称が表示されます。DSPがオンになったことを示します。

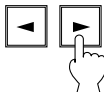


音場プログラム名

ご注意

もう一度DSPキーを押すと、DSPがオフになり、ディスプレイに“THRU”と表示されます。

2 ◀/▶キーを使って、音場プログラムを選択してください。



音場プログラムは、次の中から選択できます。

まるでその場所にいるような、リアリティのある音場感を創り出すプログラムです。	
HALL (ホール)	客席1700席程度の中ホールの美しく豊かな響きが特徴です。
JAZZ (ジャズ)	ニューヨークのライブハウスのような響きが特徴です。
CHURCH (チャーチ)	修道院のドーム状の天井空間に残響が響き合う余韻の美しさが特徴です。
DOLBY PRO LOGICやDOLBY DIGITALなど映画用のサラウンド技術にヤマハDSPを融合した音場プログラムです。	
GAME (ゲーム)	ゲームサウンドに奥行きとサラウンド感を加えるプログラムです。迫力や臨場感のあるゲームが楽しめます。
MOVIE (ムービー)	超ワイドな空間をイメージさせる音場プログラムです。映画のシーンの中に飛び込んだようなリアリティを味わえます。
LIVE (ライブ)	ロックやジャズなどの情熱的なライブ感を再現する音場です。
VDD (バーチャルドルビーデジタル)	DOLBY DIGITALを再生するため、5.1chスピーカと同様の効果をフロント2chスピーカで擬似的に再現するプログラムです。DOLBY DIGITAL方式でエンコードされたDVDソフトの純粋な再生に適しています。

HP3D(ヘッドフォン専用バーチャル3D)バーチャル3D効果をヘッドフォンで擬似的再現するプログラムです。VDDモード時にヘッドフォンを挿入すると自動的に切り換わります(12ページ参照)。

録音する

RP-U100で選択した入力ソースは、AUX 2 OUT端子(アナログ)またはOPT OUT端子(デジタル)経由で出力し、カセットレコーダーやMDレコーダーで録音できます。また入力ソースがANALOG AUX 1 IN、ANALOG AUX 2 INまたはTUNERの場合はUSB端子を介してPCへ出力することができます。

本機や周辺機器の電源を入れてから、操作します。

- 1 インプットセクター部のキーを押して、再生する入力ソースを選択してください。
- 2 AUX 2 OUT端子(アナログ)またはOPT OUT端子(デジタル)に接続した機器で、録音を開始してください。
- 3 入力ソースの再生を始めてください。
内蔵チューナの選局方法は、23ページをご参照ください。
それぞれの端子から出力される信号は、現在選択されている入力ソースに応じて、次の表のように変化します。

入力ソース			出力端子		
インプットセクター	ディスプレイ	入力端子	ANALOG AUX 2 OUT	DIGITAL OPT OUT	USB
PC	USB	USB端子		×	×
	PC_DG ^{*1}	DIGITAL PC OPT IN ^{*2}	×		×
		DIGITAL PC COAX IN	×		×
	PC_AN ^{*3}	ANALOG PC IN		×	×
AUX1	AUX-1	DIGITAL AUX 1 OPT IN	×		×
		ANALOG AUX 1 IN		×	
AUX2	AUX-2	ANALOG AUX 2 IN	×	×	
TUNER	AM or FM			×	

*1 ANALOG PC IN端子に入力された信号はANALOG AUX 2 OUT端子へ送られます。

*2 PC OPT IN端子とPC COAX IN端子に同時に信号が入力されたときはPC OPT IN端子が優先されます。

*3 DIGITAL PC OPT IN端子あるいはDIGITAL PC COAX IN端子に入力された信号はDIGITAL OPT OUT端子へ送られます。

ご注意

音場プログラムの効果がかかった音を録音することはできません。

ラジオを聴く

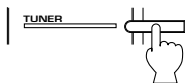
ラジオを選局するやりかたには、手動で選局する“マニュアル選局”と、自動的に選局する“オート選局”の2つがあります。

電波の強い放送局を受信するときはオート選局が早くて便利ですが、電波の弱い放送局を受信するときや、受信環境が悪い場合にはマニュアル選局をおすすめします。

マニュアル選局

本機の電源を入れてから操作します。

- 1 インプットセクター部のTUNERキーを押して、入力ソースとして内蔵チューナを選択してください。



最後にチューナを操作したときの状態に応じて、次の2つのモードのうち、いずれか一方が選ばれます。

周波数表示モード: 周波数を◀/▶(ダウ / アップ)キーで変化させて選局するモードです。ディスプレイには周波数が表示されます。

プリセットチューニングモード: あらかじめ登録された放送局の中から選局するモードです。ディスプレイには、プリセット局を表すA～Eのアルファベットと1～8の番号が表示されます。



周波数表示モード



プリセット
チューニングモード

- 2 ディスプレイがプリセットチューニングモードのときは、P-SETキーを何回か押して、周波数表示モードに切り替えてください。



- 3 TUNERキーを押して、希望するバンド(FM オートステレオ、FMモノラル、AM)を選んでください。

周波数表示モードでは、TUNERキーを押すたびにバンドが次のように切り替わります。

FMオートステレオ

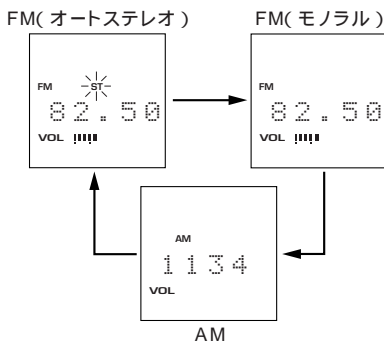
受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します(ディスプレイ上で“ST”のインジケーターが点灯します)。ただし、ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります(この場合は、“ST”のインジケーターが消灯します)。

FMモノラル

FM放送を強制的にモノラル受信します。FM オートステレオ受信中に雑音が多いときは、FMモノラルで受信してください。

AM

AM放送を受信します。



ラジオを聴く(つづき)

- 4 ◀キーまたは▶キーのいずれか一方を繰り返し押し、希望する放送局の周波数に合わせてください。

現在の周波数より低い周波数の局を選局するときは◀キー、高い周波数の局を選局するときは▶キーを押します。

選択可能な周波数の範囲と、◀/▶キーを押したときに上下する1ステップあたりの周波数は、右の表の通りです。

バンド	周波数範囲	1ステップあたりの周波数
AM	531kHz~1611kHz	9kHz
FM	76.0MHz~90.0MHz	0.1MHz

オート選局

本機の電源を入れてから操作します。

ご注意

- 1 インプットセクター部のTUNERキーを押して、入力ソースとして内蔵チューナを選択してください。

- 2 ディスプレイがプリセットチューニングモードのときは、P-SETキーを何回か押して、周波数表示モードに切り替えてください。

- 3 TUNERキーを押して、希望するバンド(FMオートステレオ、FMモノラル、AM)を選んでください。

- 4 ◀キーまたは▶キーのいずれか一方を押し、1秒以上押し続けてください。

現在の周波数より低い周波数の局を探すときは◀キー、高い周波数の局を探すときは▶キーを押します。局が発見されたときは、自動的に選局して検索を停止します。

局が見つからなかったときは、最初の周波数で停止します。

- 5 選局された放送局がご希望の局でないときは、もう一度手順4の操作を行ってください。

オート選局で希望する放送局を受信できない場合は、マニュアル選局を試してみてください(23ページ参照)。

FMオートステレオで放送受信時に雑音が多い場合は、FMモノラルで受信してください。

プリセット選局を使う

RP-U100では、お好きな放送局をメモリーに登録(プリセット)しておくことができます。登録用のメモリーはA～Eのプリセットページに1～8のステーションナンバーが用意され、合計では40局分の登録が可能です。登録した放送局は、簡単な操作で呼び出せます。

放送局を登録するには、手で1つ1つの局を登録していくマニュアル登録と、受信可能な放送局を連続して自動的に登録していくオート登録があります。

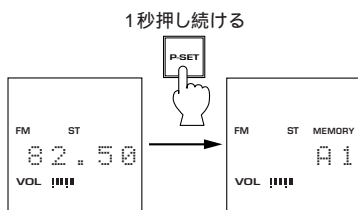
放送局をマニュアル登録する

本機の電源を入れ、入力ソースとしてチューナを選択してから操作します。また、ディスプレイが周波数表示モードにあることを確認してください。

- 1 登録したい局のバンド(FMオートステレオ、FMモノラル、AM)と周波数を指定してください。
- 2 P-SETキーを押し続けてください。



P-SETキーを1秒間以上押し続けると、ディスプレイ上で“MEMORY”のインジケーターが点滅します。これは、メモリーに登録可能な状態であることを表します。



- 3 P-SETキーを使って、保存先のプリセットページ(A～E)を選んでください。
- 4 ◀/▶キーを使って、保存先のステーションナンバー(1～8)を選択してください。
- 5 P-SETキーをしばらく押し続けてください。P-SETキーを1秒以上押し続けると、選択された放送局が登録されます。

ご注意

手順2で5秒以上押し続けるとオートプリセットになります。

手順2～4で5秒以上キー操作がなかった場合、もしくはインプットセクター部のキーが押された場合は、“MEMORY”の表示が消えて、以前の状態に戻ります。

新たに放送局を登録すると、以前までその位置に登録されていた放送局は消去されます。

プリセット選局を使う(つづき)

放送局をオート登録する(オートプリセット機能)

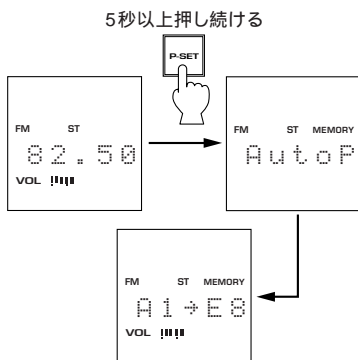
オートプリセットとは、その地域で受信可能な放送局を自動的に登録していく機能です。

本機の電源を入れ、入力ソースとしてチューナを選択してから操作します。

1 ディスプレイが周波数表示であることを確認し、登録したい局のバンド(FMオートステレオ、FMモノラル、AM)を指定してください。オートプリセットは、現在選ばれているバンドに対して有効です。例えばFM局とAM局を同時に登録することはできません。

2 P-SETキーを押し、そのまま5秒以上押し続けてください。

P-SETキーを5秒以上押し続けると、しばらくの間ディスプレイに“AutoP(オートプリセット)”と表示された後、“A1 E8”と表示されます。これは、放送局を登録するメモリーの範囲を表しています。

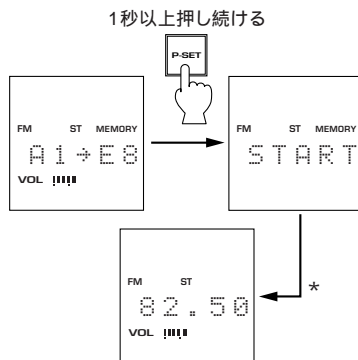


3 P-SETキーと◀/▶キーを使って、登録を開始するプリセットページ(A~E)とステーションナンバー(1~8)を選択してください。

ご注意

登録の終了位置は“E8”に固定されており、変更することはできません。

4 P-SETキーを1秒以上押し続けてください。ディスプレイに“START”と表示されます。



*: ◀キーまたは▶キー、P-SETキーで
オートプリセット開始

5 現在の周波数より低い周波数の局から登録を始めるときは◀キー、高い周波数の局から登録を始めるときは▶キーまたはP-SETキーを押してください。

受信可能な放送局を見つけると、手順2で指定した位置から順番に登録していきます。終了位置(E8)まで登録するか、そのバンドで使用可能な周波数を一巡すると、オートプリセットを停止します。また、登録中にDSPキー以外のキーを操作したときもオートプリセットを停止します。

ご注意

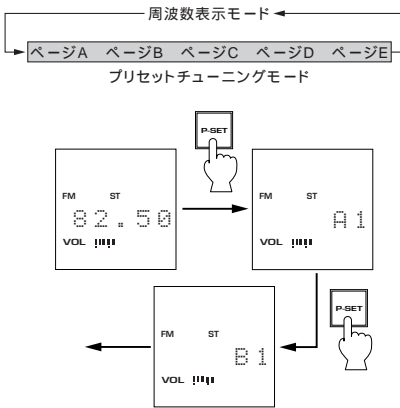
手順2~5で10秒以上キー操作がなかった場合は、オートプリセットを中止して以前の状態に戻ります。

新たに放送局を登録すると、以前までそのメモリー位置に登録されていた放送局は消去されます。

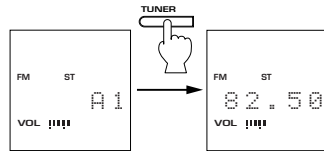
登録した放送局を呼び出す

本機の電源を入れ、入力ソースとして内蔵チューナを選択してから操作します。

- 1 P-SETキーを押して、周波数表示モードからプリセットチューニングモードに切り替えてください。
- 2 P-SETキーを使って、プリセットページ(A～E)を選んでください。
P-SETキーを押すたびに、周波数表示モードとプリセットチューニングモードの各ページが、次のように切り替わります。



- 3 ◀/▶キーを押してステーションナンバー(1～8)を選んでください。
選択したページ/ナンバーにプリセットされた放送局が選局されます。
- 4 登録された局の周波数を知りたいときは、TUNERキーを押してください。
プリセットページとステーションナンバーが選ばれた状態でTUNERキーを押すと、その局の周波数が2秒間表示されます。



ご注意

付属のアプリケーションソフトウェアを使えば、本体で登録されている40局以外に168局の放送局を疑似的に登録することが可能です。また、アプリケーションソフトウェアで拡張した局を受信中は本体は周波数表示モードになります。詳しくは、アプリケーションソフトウェアのヘルプファイルをご参照ください。

登録した放送局をコピーする

プリセットした放送局をメモリの別の位置にコピーできます。よく聴く放送局を近い位置にまとめたり、プリセットページごとに音楽ジャンルを分けたいときに、便利です。

本機の電源を入れ、入力ソースとして内蔵チューナを選択してから操作します。

- 1 P-SETキーを押して、周波数表示モードからプリセットチューニングモードに切り替えてください。
- 2 P-SETキーと◀/▶キーを使って、コピー元となる放送局が登録されたプリセットページ(A～E)とステーションナンバー(1～8)を選んでください。

- 3 P-SETキーを押し、そのまま1秒間押し続けてください。
ディスプレイ上で“MEMORY”の表示が点滅します。
- 4 P-SETキーと◀/▶キーを使って、コピー先となるプリセットページ(A～E)とステーションナンバー(1～8)を選んでください。
- 5 P-SETキーをしばらく押し続けてください。
1秒以上押し続けると、選択された放送局が新しい位置にコピーされます。

付属のアプリケーションソフトウェアについて

RP-U100には、本体の機能をPC側からコントロールするためのアプリケーションソフトウェア（Windows98版）が付属しています。ここでは、アプリケーションソフトウェアの動作環境とインストール方法について説明します。

動作環境

付属のアプリケーションソフトウェアを使用するには、以下の環境が必要です。

オペレーティングシステム

Microsoft Windows 98 日本語版

コンピュータ本体

Pentium MMX200MHz以上のCPU及び相当品、USB規格Ver.1.0に対応しているUSBポート

メモリ

32MB以上（64MB以上を推奨）

ハードディスク

20MB以上の空き容量が必要

ディスク装置

CD-ROMまたはDVD-ROMドライブ

ディスプレイ

640×480ドット以上で256色以上の解像度を備えた、ビデオディスプレイアダプタとカラーディスプレイ

Microsoft Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Windows98の正式名称は、Microsoft Windows98 operating systemです。

Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。

インストールと確認

ここでは、付属CD-ROMから「アプリケーションソフトウェア」「ヘルプファイル(アプリケーションの使い方を説明するプログラム)」「デバイスドライバ(周辺機器を制御するための基本ソフトウェア)」をPCにインストールする方法について説明します。

インストール前の準備

ご注意

インストールが完了するまでPCとRP-U100のUSBポートを接続しないでください。誤って接続してしまった場合は31ページの「デバイスドライバの再インストール」を参照してください。

インストールを始める前に、前ページの「動作環境」を確認して、ご使用のPCがRP-U100に対応しているかどうかをお調べください。

前ページの「動作環境」とは、PCとRP-U100をUSBポート経由で接続する場合に必要な仕様をまとめたものです。ご使用のPCがこの条件を満たさないときでも、PCのオーディオ出力端子を入力ソースとして利用できますがPC側からアプリケーションソフトウェアを使っのコントロールができない場合があります(13ページを参照)。

ご使用のPC環境によっては、インストールの途中で、「Windows98」のCD-ROMが必要になることがあります。あらかじめお手元にご用意ください。

ご使用のPC環境によっては、インストール方法が以下の手順と異なる場合があります。この場合は、表示されるダイアログボックスの指示に従ってください。また、ご不明な点については、PCメーカーまたはコンピュータ販売店にお問い合わせください。

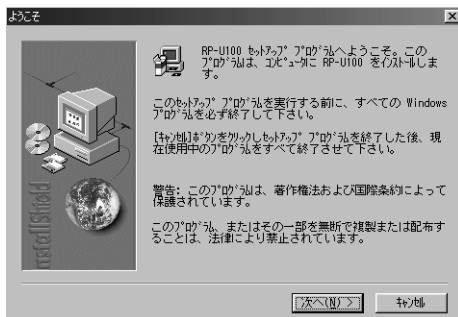
インストールを始める前にPCのWindows98を起動してください。

アプリケーションソフトウェアとヘルプファイルのインストール方法

「YAMAHA RP-U100」のCD-ROMをPCのCD-ROM(DVD-ROM)ドライブに挿入してください。

アプリケーションソフトウェアのインストールはCD-ROMをCD-ROM(DVD-ROM)ドライブに挿入すると自動的に開始されます。

- 1 以下、ダイアログの指示に従って、インストール先を指定し、インストールを開始してください。



付属のアプリケーションソフトウェアについて(つづき)

自動起動でのインストールができない場合は以下のいずれかの方法でインストールしてください。

「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして「マイコンピュータ」ウィンドウを開き、「Yamaha_rp-u100」CD-ROMのアイコンをダブルクリックします。インストール画面が表示されます。ダイアログの指示に従ってインストールを開始します。

Windows 98に付属の「エクスプローラ」を使ってCD-ROMの「Setup.exe」を実行します。

コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」を開き、インストールプログラムとしてCD-ROMの「Setup.exe」を指定します。

[スタート]メニューの「ファイル名を指定して実行」を使用してCD-ROM上にある「Setup」ファイルを選択して「開く」をクリックします。

デバイスドライバのインストールと確認

次に、RP-U100のデバイスドライバをインストールする方法について説明します。デバイスドライバとは、システムが周辺機器を制御するために必要な基本ソフトです。

RP-U100の電源コードをコンセントに接続してください。

この段階では必ずしもRP-U100のPOWERスイッチがオンになっている必要はありません。

1 USBケーブルを使って、PCとRP-U100のUSBポートを接続してください。

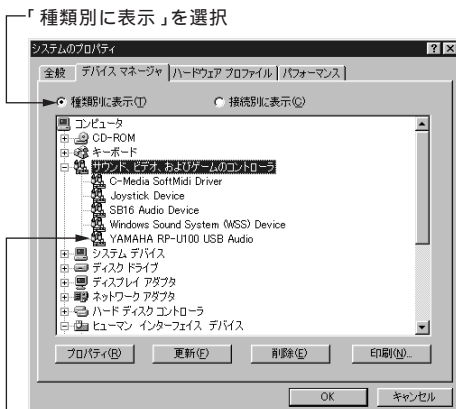
新しいハードウェアとしてRP-U100が自動的に検出され、必要なデバイスドライバがインストールされます。なお、お使いのPC環境によっては「Windows 98」のCD-ROMが要求されることがあります。この場合は、ダイアログボックスの指示に従ってCD-ROMを入れ替えてください。

2 インストールが済んだら、デバイスドライバが認識されているかどうかを確認しましょう。

[スタート]メニューから[設定] [コントロールパネル]の順に選んで「システム」のアイコンをダブルクリックしてください。

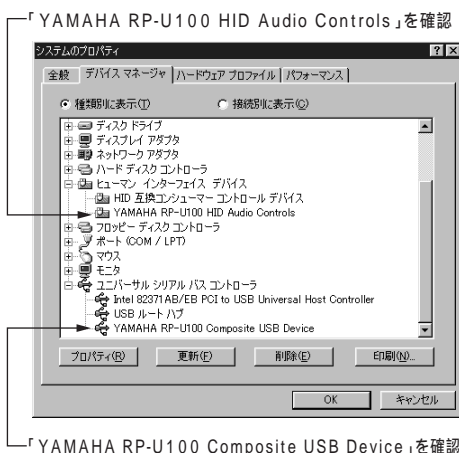
3 「デバイスマネージャ」のタブをクリックしてください。このとき、「種類別に表示」が選択されていることを確認してください。

4 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の先頭にある「+」のマークをクリックしてリストを開き、「YAMAHA RP-U100 USB Audio」が認識されていることを確認してください。



「YAMAHA RP-U100 USB Audio」を確認

- 5 同じように「ヒューマン インターフェイス デバイス」のリストの中に「YAMAHA RP-U100 HID Audio Controls」が、「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」のリストの中に「YAMAHA RP-U100 Composite USB Device」がそれぞれ認識されていることを確認してください。



ご注意

リスト内のその他の項目は、ご使用のPC環境に応じて異なる場合があります。

デバイスの先頭に「!」?」のマークが表示される場合は、以下の各項目を確認してください。

USBケーブルはしっかり接続されていますか？

RP-U100の電源コンセントは接続されていますか？

上記のデバイスが認識されていない場合は、USBケーブルを1回抜き差しして、再度デバイスドライバの自動インストールを試みてください。

デバイスドライバの再インストール

付属のアプリケーションソフトウェアをインストールする前に誤ってPCとRP-U100のUSBポートをUSBケーブルで接続するとRP-U100のデバイスドライバは正しくデバイスを認識せず「システムのプロパティ」ウィンドウには次のように表示されます。

「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」のリストの中に「USBオーディオデバイス」

「ヒューマンインターフェイスデバイス」のリストの中に「USBヒューマンインターフェイス デバイス」

「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」のリストの中に「USB互換デバイス」

この場合でも、アプリケーションソフトウェアのコントロールや再生は問題なく行うことができますが、RP-U100のデバイスとして認識させたい場合は、次の手順で再インストールを行う必要があります。

- 1 RP-U100とPCがUSBケーブルで接続されていることを確認します。
- 2 「システムのプロパティ」の中の「デバイスマネージャ」で「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」のリストを開きます。

付属のアプリケーションソフトウェアについて(つづき)

3 「USB互換デバイス」が表示されていることを確認し、クリックして選択します。

4 「削除」をクリックします。
(右下のダイアログが表示されるので、「OK」をクリックします。)

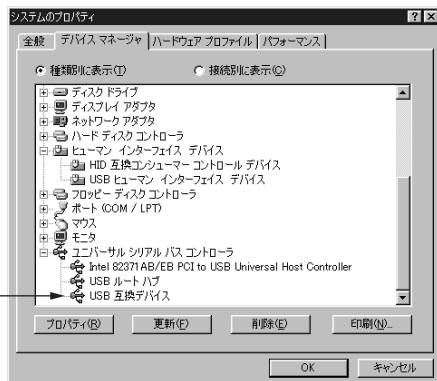
「USBオーディオデバイス」「USBヒューマンインターフェイスデバイス」のリストが同時に削除されます。

5 「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」のリストから「USB互換デバイス」が削除されていることを確認します。

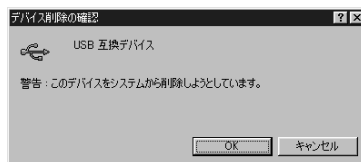
6 USBケーブルを抜きます。

7 付属のCD-ROMをCD-ROM(DVD-ROM)ドライブに挿入してアプリケーションソフトウェアのインストールを行います。
その後USBケーブルでRP-U100とPCを接続すると、デバイスドライバの再インストールが行われます。

8 デバイスの確認を行います。30ページの「デバイスドライバのインストールと確認」を参照してください。



「USB互換デバイス」を確認して選択



アプリケーションソフトウェア/ヘルプファイルを起動する

デバイスが認識されていることが確認できたら、早速アプリケーションソフトウェアやヘルプファイルを起動してみましょう。

- 1 アプリケーションソフトウェアを起動するには、[スタート]メニューから[プログラム] [YAMAHA RP-U100] [RP-U100]の順に選んでください。
このアプリケーションソフトウェアを使えば、RP-U100のさまざまな機能をPCからリモートコントロールできます。
- 2 ヘルプファイルを見るには、[スタート]メニューから[プログラム] [YAMAHA RP-U100] [Help]の順に選んでください。
このヘルプファイルは、上記のアプリケーションソフトウェアの操作方法を説明したものです。操作が分からないときに参照してください。

■ アプリケーションソフトウェアのアンインストール

- 1 RP-U100のアプリケーションソフトウェアとヘルプファイルを終了します。
- 2 [スタート]メニューをクリックして[設定] [コントロールパネル]の順に選びます。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 3 [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 4 リストの中から[YAMAHA RP-U100]を選びます。
[YAMAHA RP-U100]が反転表示されます。
- 5 [追加と削除]ボタンをクリックし、以下ダイアログの指示に従ってアンインストールを行います。

故障かな？と思ったときは

本機の使用中に、正常に動作しなくなったときは下記の次項をご確認ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	プラグをコンセントにしっかり差し込んでください
	スピーカコードがショートしている	電源を切り、スピーカの接続をやり直してから、もう一度電源を入れてください
音が出ない	インプットセクタで適切な入力ソースが選ばれていない	再生したいソースを選んでください 入力ソースとしてPCを選んでいるときは、デジタル / アナログ / USBの選択が適切かどうかを確認してください
	ボリュームが絞られている	本体またはアプリケーションソフトウェアの画面でボリュームを上げてください
	接続が不適切	接続を確認してください
	入力ソースとして選んだ外部機器の電源が入っていない	外部機器の電源を入れてください
デジタル入力端子に接続した外部機器の再生音をアナログ出力端子に接続した録音機器で録音できない	デジタル入力端子からの信号はアナログ出力端子に接続した録音機器では録音できません（22ページ参照）	再生をアナログ入力端子で行うか、録音機器をデジタル出力端子に接続してください
音場プログラムの効果がない	DSPがオフになっている	DSPをオンに切り替えてください
音場プログラムをかけた音が録音できない	音場プログラムをかけた音を、本機を通じて録音することはできません	
ブーンというハム音が出る	ピン端子（アナログ）の接続が不完全	ピン端子をしっかりと差し込んでください
本機を使用するとテレビに影響がある	本機とテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、テレビとは離して設置してください

メモリーバックアップについて

本機の電源スイッチ(○)で電源を切っても、インプットセクタ -、DSP音場プログラムモ - ド、チュー - ナプリセットメモリ - などの内容は消えずに、記憶(メモリ -)されています。本機では、メモリ - 内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。

また、約2週間は電源コ - ドを電源コンセントから抜いても、メモリ - 内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コ - ドをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサ - が放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じて各調節、設定を行ってください。

電源コ - ドが電源コンセントに接続されていれば、電源スイッチ(○)を切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリ - 内容が消えることはありません。

ラジオ

FM放送受信時

どんな状態ですか	原因	こうすればOKです
“バリバリ” “ガリガリ” という雑音が入る	モーターバイクや自動車のイグニッションノイズをひろっている	アンテナ角度、設置位置をノイズの入らない最も良い位置にしてください それでも良くならないときは屋外アンテナを使ってください
	サーモスタット付きの電気器具から雑音をひろっている	アンテナの接続には同軸ケーブルを使用してください 雑音を発生する電気器具に雑音防止器を取り付けてください
ステレオ放送になると雑音が多く、聴きづらい。またはモノラル放送に切り替わってしまう	FM放送の特性により、放送局から離れた地域で受信している場合や、アンテナ入力が弱い場合に、このような症状が起きます	アンテナの接続を確認してください
		FM屋外アンテナを設置してください
オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域や、アンテナ入力が弱い場合に、このような症状が起きます	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください
		マニュアル選局をご利用ください
ステレオ放送の受信時、“ST”のインジケータが点滅し、雑音が多い	受信している放送局の電波が弱い	受信地域の電界強度に合ったアンテナを設置してください
	正しく選局されていない	もう一度選局してください
FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感が悪い	妨害電波を受けている	アンテナの設置場所を変えてください
プリセット選局ができない	プリセットが消えている	もう一度プリセットしてください

AM放送受信時

どんな状態ですか	原因	こうすればOKです
音質がよくない（感度が悪い）	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全	AMループアンテナを接続し直してみてください
オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全	AMループアンテナの方向を変えてみてください、それでも良くならないときはアンテナの角度、設置位置をかえて最適な位置にしてください
		マニュアル選局にしてみてください
		屋外にAM用のアンテナを張ってください
“ジー” “ザー” “ガリガリ” などの雑音が連続して入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音をひろっている	屋外にAMアンテナを張り、アースを完全に取れば減少します。ただし、完全に除去するのは困難です
“ブンブン” “ヒューヒュー” などの雑音が入る	他の放送局による干渉を受けている	対策は困難です
	本機の近くでテレビを使用している	本機からテレビを離してください

故障かな？と思ったときは(つづき)

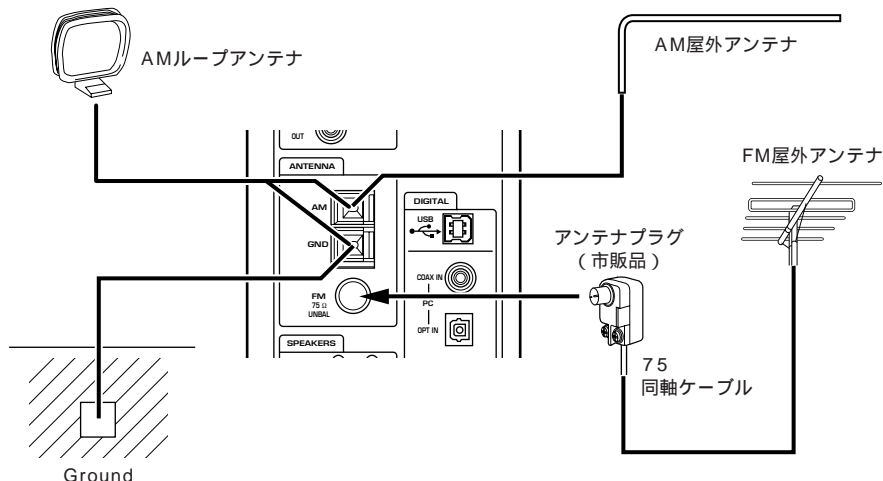
RP-U100 FM/AMチューナー使用時の注意

PC、PCモニター、周辺機器は高周波のデジタル回路を使用しているためラジオやテレビなどの近くに置くと電波干渉を引き起こします。RP-U100使用時にそのような干渉が原因で、受信状態が悪かったり、オート選局機能が正常に働かないなどの場合は以下の処置を行ってください。

FM簡易アンテナ、またはAMループアンテナをPCやモニターからできるだけ離し、受信状態が最も良くなる位置と方向に設定してください。

良好なFM受信が得られない場合は、FM屋外アンテナをご使用をお勧めします。屋外アンテナの接続には75 同軸ケーブルをご使用ください。また共聴FMアンテナ接栓を利用できる方は本機のFMアンテナ端子にこの接栓を接続してください。

付属のAMループアンテナで良好なAM受信が得られない場合は、5mから10mのビニール被覆線、または細いスピーカーケーブルの片端を10mmほど剥がし、本機のAMアンテナ端子に接続して窓際から屋外に張ってください。また同様のケーブルの片端を通電可能なほど剥がしアース棒、金属板などにつなぎ地中に埋めてアースを取り、一方の端を本機のGND端子に接続します。このとき、AM ループアンテナも本機のAMアンテナ端子とGND端子に接続しておきます。



仕様

定格出力	30W + 30W(20Hz ~ 20kHz、6 %、0.6%THD)
入力感度	
PC、AUX1、AUX2	150mV/35k
出力電圧	
REC OUT(AUX2 Output)	150mV/3.3k
Subwoofer output	2.0V/1.5k
ヘッドフォン出力	
	330mV/47
受信周波数範囲	
	FM: 76.0 ~ 90.0MHz
	AM: 531 ~ 1611kHz
実用感度	
	FM(MONO): 1.5 μ V
	AM: 60dB μ
寸法(幅 × 高さ × 奥行き)	
	120 × 295 × 379.5mm
重量	
	5.4kg

仕様は予告なく変更することがあります。

本機は電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

ユーザーサポートシート

RP-U100のご使用に際して、お困りの点がございましたら下記の表にご記入の上、ヤマハUSBオーディオサポートラインまでお問い合わせください。

送付先: 〒430-8650 浜松市中沢10-1 ヤマハ(株)AV機器事業部 USB窓口宛
TEL 053(460)3476
E-mail USBAU_SUPT@avkk.yamaha.co.jp

ふりがな		ご購入年月日		年 月 日	
お名前		製造番号			
ご住所	〒				
ご連絡先電話番号	-	-	ご連絡先FAX番号	-	-
ご連絡先E-mailアドレス					
使用環境について	PCのメーカー、機種名				
	PCのCPU		容量	メモリ本体	MB
				ハードディスク	GB
	同時に使用していたアプリケーションソフト(種類・ソフト名をご記入ください)				
その他の周辺機器(種類、メーカー、品番をご記入ください)					
お問い合わせ項目		接続方法・インストール・使用方法・その他()			
お問い合わせの内容(トラブル発生時の操作、状況、ご不明な点など具体的にご記入ください)					

修理のご依頼・お問い合わせにつきましては、お買い上げの販売店またはお近くのヤマハサービスセンターまでお申し付けください。

USB関連製品サポート窓口のご案内

製品本体やパソコンとの接続などご不明な点は、お買上げの販売店または下記のUSB関連製品サポート専用窓口まで、お問い合わせください。

ヤマハUSBオーディオサポートライン

TEL: 053 - 460 - 3476

E-mail: USBAU_SUPT@avkk.yamaha.co.jp

保証とアフターサービスのご案内

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げの販売店、またはお近くのヤマハサービスセンターへお申し付けください。

保証期間及び保証期間中の修理

保証期間はお買上げ日より1年間です。

保証期間中は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきますので、保証書はよくお読みの上大切に保管ください。

保証期間を過ぎているときの修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

なお、補修用性能部品の最低保有年数は、製造打ち切り後8年です。

注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持する為に必要な部品です。

持ち込み修理のお願い

故障の場合は、お買上げ販売店、または最寄りのヤマハサービスセンターへお持ちくださるようお願い致します。また、修理ご依頼の際には、品番、製造番号と共に、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

修理料金について

修理料金には以下の料金が含まれます。

技術料 診断、修理、部品交換、調整、点検などの作業に関わる費用です。

部品代 修理に使用した部品や補助材料費です。

出張費 お客様のご依頼により技術者を派遣する場合の費用です。

ヤマハ電気音響製品サービスセンター

(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持込窓口)

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南十条西1-1-50

ヤマハセンター内

Te℥ 011)512-6108

仙台 〒984-0015 仙台市若林区卸町5-7

仙台卸商共同配送センター3F

Te℥ 022)236-0249

首都圏 〒211-0025 川崎市中原区木月1184

Te℥ 044)434-3100

浜松 〒435-0048 浜松市上西町911

ヤマハ(株)宮竹工場内

Te℥ 053)465-6711

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2

ヤマハ(株)名古屋流通センター3F

Te℥ 052)652-2230

大阪 〒565-0803 吹田市新芦屋下1-1-6

ヤマハ(株)千里丘センター内

Te℥ 06)6877-5262

四国 〒760-0029 高松市丸亀町8-7

(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内

Te℥ 087)822-3045

広島 〒731-0113 広島市安佐南区西原6-14-14

Te℥ 082)874-3787

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4

Te℥ 092)472-2134



安全に末永くご愛用いただく為に愛情点検をお願いします。

こんな症状はありませんか？

電源コード・プラグが異常に熱い。
コゲくさい臭いがする。
電源コードに深いキズが変形がある。

製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
電源を入れても正常に作動しない。
その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

お客様 メモ欄	品番	お買上げ日	販売店名
	製番		
			TEL

ヤマハAV製品のご購入に関するお問い合わせは

AVお客様ご相談センター

TEL : 03 - 5488 - 5500 にて承ります。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

営業部

TEL(053)460-3451

品質保証室

TEL(053)460-3405

住所および電話番号は変更になることがあります。

Printed in Japan (P) V394210

YAMAHA RP-U100 アプリケーション ヘルプ



RP-U100 について

RP-U100 マルチメディアアンプ RP-U100

USB対応マルチメディアアンプとしてアンプとチューナー機能を標準装備しています。RP-U100 は今までのオーディオ機器のような通常のアンプとしての使用は勿論のこと、パーソナルコンピューター や他オーディオ製品との接続によっては様々な楽しみ方を提供します。

RP-U100 パーソナルコンピューターからRP-U100 本体のコントロールが可能

RP-U100 本体とパーソナルコンピューター をUSBケーブルで接続することにより、パーソナルコンピューター 側からRP-U100専用アプリケーションを用いて[本体機能のコントロールが可能](#)となっています。

RP-U100 ヤマハ Digital Sound field Processing 音場プログラムを搭載

RP-U100 は、世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場を再現する「[音楽に適したDSP音場プログラム](#)」と、ゲームや[ドルビーデジタル](#)などの DVD 映画フォーマットに対応し、理想的なシアターサウンドを提供する「[ビデオに適したDSP音場プログラム](#)」を搭載しています。

RP-U100 独自のバーチャル 3D技術により自然な臨場感のサラウンド効果を実現

通常ドルビーデジタルなどの多チャンネルソースの再現には、フロントやリア側などに何本ものスピーカーを必要とします。ヤマハが開発した[バーチャル 3D技術](#)では、前方左右2本のスピーカーでサラウンド効果を生み出すことができます。

RP-U100 多彩な入出力端子

USB、DIGITAL、ANALOG などの入力端子を装備し、パーソナルコンピューター や他オーディオ 機器との接続が可能となっています。


RP-U100 USB キャプチャー

アナログ入力信号をA/D変換後、USB ケーブルを通してパーソナルコンピューター へ出力することで、パーソナルコンピューター 側のレコーダーソフトウェアによるデータ録音を可能にする[USBキャプチャー機能](#)を搭載しています。

ドルビーデジタル (1)

米国・ドルビー研究所が開発した劇場用音響フォーマットである「ドルビーデジタル」を、家庭で再現するためのフォーマットです。「ドルビーデジタル」は、前方3チャンネル、後方2チャンネルの合計5チャンネルに低音専用チャンネル LFE (ロー・フリクエンシー・エフェクト) を加えた5.1チャンネルを、デジタル圧縮技術を用いて完全に独立した音声として再生するものです。従来の「ドルビープロロジック」方式が前方3チャンネル、後方1チャンネルの合計4チャンネルを2チャンネルのステレオ音声にミックスして、マトリクス回路で分離するのに対して、音質に優れ、より立体的なサラウンドが再生できます。

(1)

ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、バーチャルドルビーデジタル、PRO LOGIC、およびダブルD記号  は、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

バーチャル 3D技術

従来のサラウンド効果 (DOLBY PRO LOGIC、DOLBY DIGITAL) を再現するには、フロント (前) とリア (後) に合計4～6本ものスピーカーを使用し、リスナーの前後にある程度のスペースが必要でした。

しかしRP-U100 には、2本のスピーカーで擬似的にサラウンド効果を再現する、ヤマハ独自の「バーチャル 3D」技術が搭載されています。

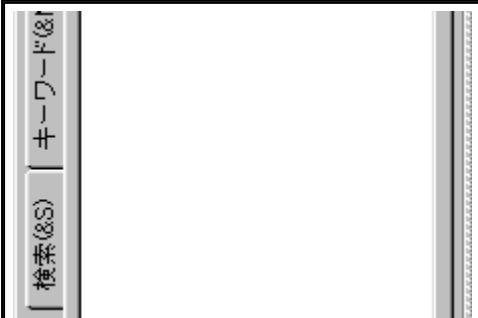
フロント2本のメインスピーカーを設置するだけで、リスナーはリアの仮想スピーカーを感じることができ、良好な広がり感や、後方への移動感が得られます。

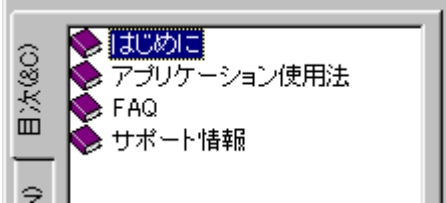
また、RP-U100 アプリケーションを使って、バーチャル 3Dのパラメーターを加工することも可能です。

ヘルプの使い方

オンラインヘルプ中に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
本ヘルプ中の内容は、将来予告なしに変更する場合があります。

RP-U100 閲覧方法

	機能	内容
	目次	目次は「目次タブ」を選択すると表示されます。 ここでは、ヘルプ内のページ内容を階層を用いて整理しています。 トップ項目から順に、調べたい内容に関連するページを視覚的に選択していくことができます。
	キーワード検索	ヘルプファイル中で定義されているキーワード(重要単語)などが表示されます。 表示されているキーワードを直接選択するか、キーワ


	<p>ードを入力して検索することもできます。</p> <p>検索機能</p> <p>ヘルプファイル中に掲載されているすべての文章・単語などを検索することができます。</p> <p>調べたい単語などを入力すると、その単語が掲載されているページの一覧が表示されます。表示されたページ一覧の中から、関連するページを選択し内容を閲覧することができます。</p>
---	---

RP-U100 ページ中の文章や画像などの設定個所にポインタを当てると「**指差しマーク**」が表示されます。



指差しマーク

! 「**指差しマーク**」が表示される場所では、クリックによってその部分に関連したページへ移動します。

 RP-U100 アプリケーションヘルプは、Windows98、Internet Explorer などの基本的な使用方法に関する理解が必要になります。

Windows98 の操作に関しては? [Windows ヘルプ](#) を参照して下さい。

-
- * Microsoft、Windows は米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
 - * Windows® 98の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 operating system です。

操作機能一覧

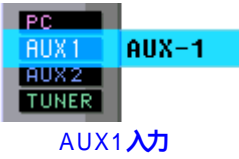
RP-U100 RP-U100 の操作は、本体とアプリケーションの双方で行うことができます
アプリケーションを使用することにより、一層多彩な機能をお楽しみいただけます。

RP-U100 RP-U100 本体での操作可能機能とアプリケーションでの操作可能機能の比較

操作可能な機能一覧		
:可能 × :不可		
機能	本体で操作可能	アプリケーションで操作可能
電源 ON/STANDBY 切替		
インプットセレクター (入力) 切替		
セレクター (入力) 表示名称の変更	×	
ボリューム調整		
USB ミックスレベル (USB MIX LEVEL) の調整	×	
ミュート (MUTE) ON	×	
ミュート (MUTE) OFF		
音量バランス (Balance) の調整	×	
チューナー バンド(AM/FM) 切替		
選局 (オート マニュアル)		
プリセット登録・呼出・編集		
DSP ON/OFF 切替		
音場プログラム切替		
パラメータ編集	×	

AUX1入力

RP-U100 AUX1入力



! 外部機器からの信号を再生します。入力端子はデジタル (光) とアナログが用意されており、デジタル優先で自動切替を行います。

RP-U100 USB キャプチャー

! AUX1入力の場合、キャプチャーする信号は、RP-U100 本体の AUX1-ANALOG 入力端子からの信号になります。AUX1-DIGITAL が選択されていた場合には、AUX1-ANALOG に自動切替されます。
[USBキャプチャーの解説ページ](#)

AUX2 入力

RP-U100 AUX2入力



! 外部機器からの信号を再生します。入力端子はアナログのみ用意されています。

RP-U100 USB キャプチャー

! AUX2入力の場合、RP-U100 本体の AUX2-ANALOG 端子から入力された信号をキャプチャーします。
[USBキャプチャーの解説ページ](#)

基本用語一覧

RP-U100 アプリケーション全般に関する用語

メインパネル

アプリケーションのメインとなるパネルです。各パネルの表示や電源管理などを行います。

[メインパネルの解説ページ](#)

セットアップダイアログ

アプリケーションの各種パラメーターのセットアップを行うダイアログです。

[セットアップダイアログの解説ページ](#)

チューニングパネル (周波数表示モード)

チューナーのマニュアル選局などを行うパネルです。

[チューニングパネル \(周波数表示モード\) の解説ページ](#)

チューニングパネル (プリセットモード)

チューナーのプリセット局の選択などを行います。

[チューニングパネル \(プリセットモード\) の解説ページ](#)

プリセット登録パネル

チューナーのプリセット登録を行います。

[プリセット登録パネルの解説ページ](#)

DSP音場セレクトパネル

DSP音場プログラムの選択などを行います。

[DSP音場セレクトパネルの解説ページ](#)

DSP音場パラメーター設定パネル

各種DSP音場パラメーターの設定などを行います。

[DSP音場パラメーター設定パネルの解説ページ](#)

バーチャル 3Dパラメーター設定パネル

バーチャル 3Dの各種パラメーターのセットアップを行います。

[バーチャル 3Dパラメーター設定パネルの解説ページ](#)

ダイナミックレンジ設定パネル

ダイナミックレンジの設定を行います。

[ダイナミックレンジの設定パネルの解説ページ](#)

USB キャプチャー

RP-U100 本体のアナログ端子に入力されたアナログ信号をA/D変換し、USBケーブルに出力することで、パーソナルコンピュータ側のサウンドレコーダー等のソフトウェアでデータの録音を可能にします。

[USBキャプチャーの解説ページ](#)

USB MIX LEVEL

USB 以外の入力を選択している場合にも、それらの入力信号とUSBケーブルによって接続されたパーソナルコンピュータからの音楽信号をミックスして聴く事ができます。この USB 以外の入力信号と、USB ケーブルからの信号をミックスさせる割合の設定項目が USB MIX LEVEL です。セットアップダイアログから設定を行います。

[セットアップダイアログ:USB MIX LEVEL の解説ページ](#)

SETUP DEVICE NAME

RP-U100 本体に接続されているオーディオ機器の名前を設定する項目です。セットアップダイアログから設定を行います。

[セットアップダイアログ:SETUP DEVICE NAME の解説ページ](#)

MAX VOL POSITION

アプリケーションで操作できるボリュームの上限を設定する項目です。セットアップダイアログから設定を行います。

[セットアップダイアログ:MAX VOL POSITION の解説ページ](#)

RP-U100 チューナー関連用語

周波数表示モード

周波数を直接変化させて選局を行うモードです。チューニングパネル (周波数表示モード)を使用します。

[チューニングパネル \(周波数表示モード\)の解説ページ](#)

プリセット登録

お好みの局 (周波数)をチューニングパネル (プリセットモード)へ登録することができます。プリセット登録パネルを使用します。

[プリセット登録パネルの解説ページ](#)

プリセットモード

プリセット登録された局の中から聴きたい局を選択するモードです。チューニングパネル (プリセットモード)を使用します。

[チューニングパネル \(プリセットモード\)の解説ページ](#)

プリセットページ

「ページ」とは、登録する局を分類して保存するためのものです。各ページには、ページタイトルを設定することができます。チューニングパネル (プリセットモード)の画面が「ページ」の表示になります。

[プリセットページの解説ページ](#)

バンド切替

FM (オートステレオ)、FM(強制モノラル)およびAMの切替機能です。FM/AM 切替ボタンとFMモード切替ボタンを使用します。

[バンド切替の解説ページ](#)

マニュアル選局

マニュアル (手動)で選局を行います。マニュアル選局ボタンを使用します。

[マニュアル選局の解説ページ](#)

オート選局 (オートスキャン)

受信周波数を自動で変化させ、放送を受信した周波数で自動的に停止させる機能です。 オートスキャンボタンを使用します。

[オート選局 \(オートスキャン\)の解説ページ](#)

RP - U100 DSP音場プログラム関連用語

音場

その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。

コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴えてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してからきえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射をくりかえしながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。

建築物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

音場アイコン

DSP音場効果をイメージしたアイコンです。DSP音場セレクターパネルを用いると、アイコンを見ながら音場プログラムを選択することができます。 選択された音場プログラムのアイコンはメインパネルの DSPボタンに表示されます。

[音場プログラム \(アイコン\)の紹介ページ](#) [DSP音場プログラムの選択解説ページ](#)

DSP音場プログラム

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。

RP-U100では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をパーソナルコンピューター 設置環境で再現することができます。

DSP音場パラメーター

音場プログラムのパラメーターは、初期値のままでも十分お楽しみいただけますが、プログラムの一部のパラメーターは変更することができます。

パラメーターを変更すれば、音場キャラクターを活かしたまま、ソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムをアレンジして楽しめます。 DSP音場パラメーター 設定パネルにより、パラメーターの設定が可能となっています。

[DSP音場パラメーター 設定パネル解説ページ](#) [DSP音場プログラムパラメーターガイド](#)

バーチャル 3D (Virtual 3D)

従来のサラウンド効果 (DOLBY PRO LOGIC, DOLBY DIGITAL) を再現するには、フロント(前)とリア(後)に合計4～6本ものスピーカーを使用し、リスナーの前後にある程度のスペースが必要でした。しかし RP-U100 には、2本のスピーカーで擬似的にサラウンド効果を再現する、ヤマハ独自の「バーチャル 3D」技術が搭載されています。フロント2本のメインスピーカーを設置するだけで、リスナーはリアの仮想スピーカーを感じることができ、良好な拡がり感や、後方への移動感が得られます。また、RP-U100 アプリケーションを使って、バーチャル 3D/パラメーター 設定パネルでパラメーターを加工することも可能です。

[バーチャル 3D/パラメーター 設定パネルの解説ページ](#)

仮想リアスピーカーポジション (Virtual Rear Speaker Position)

仮想リアスピーカーの位置を設定する項目です。DSP音場パラメーター 設定パネルで変更が可能です。

[仮想リアスピーカーポジションの解説ページ](#)

テストトーン (Test Tone)

仮想リアスピーカーの位置を確認する機能です。

[テストトーン解説ページ](#)

バランス (Balance)

左右の音量バランスの設定項目です。DSP音場パラメーター 設定パネルで変更が可能です。

[バランスの解説ページ](#)

パーソナルセッティング (Personal Setting [Main, Sub])

バーチャル 3Dの音場効果を最大限に引き出すために、個人的な環境に合わせたセッティングを行う項目です。

バーチャル 3Dでは、部屋の形状の違いや、リスニングのポジションなどの影響によって、音場効果が環境ごとに異なります。この環境の違いによって、仮想リアスピーカーの位置は、設定画面で表示している位置と完全には一致しません。Main と Sub のパラメーターは、個人が最も快適に感じる仮想リアスピーカーの位置を調整するためのものです。お好みに合わせてパラメーターを変化させて下さい。DSP音場パラメーター 設定パネルで変更が可能です。




[パーソナルセッティングの解説ページ](#)

カスタマーサービス

ヤマハ・オーディオ・ビデオ製品に関するご相談、サービス等のお問い合わせはこちらまでお願いします。
(サービスセンター、電話番号、住所は将来変更される場合があります。)




	電話番号	住所
AVお客様相談センター ご相談受付時間 (10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00)	03(5488)5500	東京都港区高輪2-17-11

サービスセンター		
北海道サービスセンター	☎11(512)6108	札幌市中央区南10条西1丁目1-50
仙台サービスセンター	☎22(236)0249	仙台市若林区卸町5-7
首都圏サービスセンター	☎44(434)3100	川崎市中原区木月1184
浜松サービスステーション	☎53(465)6711	浜松市上西町911
名古屋サービスセンター	☎52(652)2230	名古屋市中川区玉川町2-1-2
大阪サービスセンター	☎6(6877)5262	吹田市新芦屋下1-16
四国サービスステーション	☎878(22)3045	高松市丸亀町8-7

	 をクリックするか、  を直接左右にスライドさせて H-LEVEL CUT と L-LEVEL CUT を調節します。
MIN	小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。  MIN アイコンをクリックして選択します。

RP-U100

パネルのクローズ

 クローズボタン  または DSP 音場セクターパネルの  をクリックしてパネルを閉じます。

DSP音場プログラムについて

RP-U100

音場とは・・・

その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。

コンサートホールなどで、私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」の他に、床や壁・天井などに一回反射してからきこえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射をくりかえしながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。

建築物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。

ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。

RP-U100では、この音場測定の実測データを基に作成された、音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウス等の音場をパーソナルコンピューター・設置環境で再現することができます。

RP-U100

音楽に適したDSP音場プログラム

音楽に適したDSPプログラムは、特定の場所にいるかのようなリアリティのある音場感を創り出します。入力されたオリジナル信号は加工されることなくそのまま出力され、DSP処理による音場を付加。ドルビーデジタルのマルチチャンネルソフトでも、デコードされた信号をそのまま出力しながら反射音成分だけを付加することで、いながらにして世界のコンサートホールや教会の音場で楽しめます。

RP-U100

ビデオに適したDSP音場プログラム

ビデオに適したDSPプログラムは、映画などのスクリーン画像に伴うサウンド再生用に進化させた音場プログラムです。映画サラウンドデコーダであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをパーソナルな空間で再現するサラウンド音場です。

DSP ボタン

RP-U100 DSP ボタン

! DSP ボタンの上部を左クリックすると DSP 音場プログラムの ON/OFF が切り替わります。




OFF 状態 ON 状態
DSP ボタン

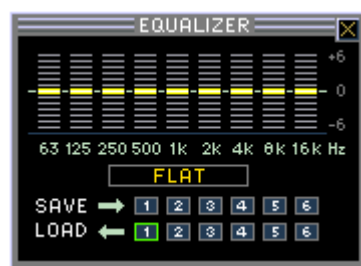
- ❗ DSP機能が OFF の場合には、『DSP OFF』が表示されます。
 DSP機能が ON の場合には、選択されている音場アイコンが表示されます。
[音場プログラムの解説ページ](#)

- ❗ DSP 機能の ON/OFF に関わらず、DSP ボタン上で右クリックすると、DSP音場セクターが表示されます。
[DSP音場セクターの解説ページ](#)









RP-U100 DSP OFF 状態における DSPボタンの機能

- ❗ DSPボタンの下部に表示される  を左クリックすると、グラフィックイコライザーパネルが表示されます。



グラフィックイコライザー

- ❗ 各周波数の  をクリックしたまま上下にスライドさせてください。
- ❗ **FLAT** をクリックすると、すべての周波数の  がフラットの状態に戻ります。
- ❗   アイコライザーでセットした状態はSAVEにより、6つの状態が保存可能です。(番号1～6)
- ❗   LOAD によって、SAVE した (1～6) を呼び出すことができます。


❗ グラフィックイコライザーのクローズ

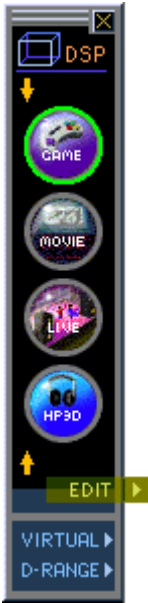
クローズボタン  または DSPボタンの下部  をクリックしてグラフィックイコライザーを閉じます。

- ❗ DSP機能を ONにすると、グラフィックイコライザーパネルが閉じますが、DSP音場パラメーター 設定パネルに表示されるグラフィックイコライザーを使用することができます。

[DSP パラメーター 設定パネル : グラフィックイコライザーの解説ページ](#)

RP-U100 DSP ON状態における DSPボタンの機能


- ❗ 音場アイコン下部に表示される  を左クリックすると、DSP音場セクターパネルが表示されます。
[DSP音場セクターパネルの解説ページ](#)



DSP音場セクターパネル


[\[パネル全体イメージ付\]](#)[\[イメージなし\]](#)

RP-U100 DSP音場セクター パネルの表示

! メインパネルの音場アイコンの下部に表示される  をクリックするとDSP音場セクターパネルが表示されます。

[DSPボタンの解説ページ](#)

RP-U100 DSP音場プログラムアイコン

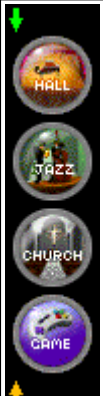
- ! DSP音場をイメージしたアイコンは 8種類あります。
- HALL、JAZZ、CHURCH、GAME、MOVIE、LIVE、VDD (HP3D)
-  HP3D はヘッドフォン使用時に VDD に変わって表示されます。





音場アイコン

音楽用	 HALL	 JAZZ	 CHURCH	 GAME
AV系		 MOVIE		 LIVE
バーチャル 3D		 VDD		 HP3D


RP-U100 DSP音場プログラムの選択



! DSP音場アイコンはパネル上に4種類表示されます。

! 表示されていないアイコンは、  をクリックして選択画面をスクロールすることにより、表示することができます。

! アイコンをクリックして、音場プログラムを選択します。




選択されたアイコンの表示

! 音場プログラムはメインパネルから直接選択することもできます。

[音場セクターの解説ページ](#)

[メインパネルの解説ページ](#)

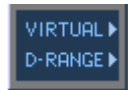
RP-U100 DSP音場パラメーター 設定パネルの表示



! EDIT (編集) ボタン をクリックすると、DSP音場パラメーター 設定パネルが表示されます。

[DSP音場パラメーター 設定パネルの解説ページ](#)

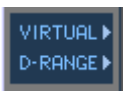
RP-U100 バーチャル 3Dパラメーター 設定パネルの表示



! VIRTUAL をクリックすると、バーチャル 3Dパラメーター 設定パネルが表示されます。

[バーチャル 3Dパラメーターセットアップパネルの解説ページ](#)


RP-U100 ダイナミックレンジ設定パネルの表示



! D-RANGE をクリックすると、ダイナミックレンジ設定パネルが表示されます。

[ダイナミックレンジ設定パネルの解説ページ](#)

RP-U100 パネルクローズ

! クローズボタン  をクリックしてパネルを閉じます。

DSP 音場パラメーター設定パネル

[パネル全体イメージ付][イメージなし]

RP-U100 DSP 音場パラメーター 設定パネルの表示



❗ DSP 音場セクターパネルの EDIT (編集) ボタンをクリックします。

🔊 DSP 音場セクターパネルが表示されていなければなりません。



DSP 音場セクターパネルは、メインパネルの DSP ボタン (音場アイコン) の下部に表示される 🎵 をクリックすると表示されます。

[DSP ボタンの解説ページ](#)

RP-U100 DSP 音場パラメーター について

❗ DSP 音場プログラムのパラメーターは、初期値でも十分お楽しみいただけますが、プログラムの一部のパラメーターは変更することができます。

❗ パラメーターを変更すれば、音場キャラクターを活かしたまま、ソースや部屋の音響に合わせて音場プログラムをアレンジして楽しめます。

DSP音場パラメーター (変更可能なもの)	
パラメータ (詳細解説ページ)	機能
エフェクトトリム (Effect Trim)	エフェクトレベル (効果音) の微調整
リアエフェクトトリム (Rear Effect Trim)	リアエフェクトレベル (効果音) の微調整
イニシャルディレイ (Initial Delay)	音源と壁面との距離感を調整
ルームサイズ (Room Size)	拡がり感の調整
ライブネス (Liveness)	響き具合の調整
サラウンドディレイ (S. Delay [Surround Delay])	サラウンド音場の遅延時間を調整
サラウンドイニシャルディレイ (S. Initial Delay [Surround Initial Delay])	サラウンド音場の遅延時間を調整
サラウンドルームサイズ (S. Room Size [Surround Initial Delay])	サラウンド音場の拡がり感の調整
リバーブタイム (Reverb Time)	余韻の長さを調整
リバーブレベル (Reverb Level)	余韻の強さを調整
リバーブディレイ (Reverb Delay)	残響音の遅延時間を調整

RP-U100

DSP音場パラメーターの変更

! 変更したい音場のアイコンをクリックします。

パラメーターの基本設定	
代表する3つのDSP音場パラメーター (Effect Trim, Room Size, Initial Delay) の変更	
 <p>DSP音場パラメーター 変更画面</p> 	

-

0

+

をクリックして選択します

-

選択中の表示

パラメーターの詳細設定

!

DSP音場パラメーターはEffect Trim, Room Size, Initial Delay 以外にも変更可能なものが用意されています。

!

Advanced ▶

各パラメーターの詳細設定を行うには、Advanced をクリックして、パラメーターの詳細設定画面を表示します。

◀ Basic

Basic をクリックすると、パラメーターの基本設定画面に戻ります。

!

各音場プログラムにより、変更可能なパラメーターが用意されています。

[各パラメーターの詳細解説ページ](#)

!

パラメーターを変更するには、

◀ ▶

 をクリックするか

●

 を左右にスライドさせてください。

!

Default

をクリックすると初期値に戻ります。

Effect Trim :

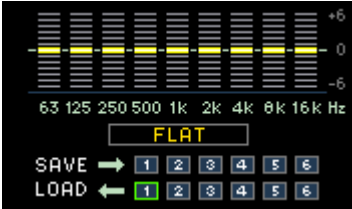
◀ ● ▶

選択されているパラメーターの表示

実際の設定画面では、変更可能なパラメーターのみ表示されます。

RP-U100

グラフィックイコライザーの設定



各周波数の

▬

 をクリックして、上下にスライドさせてください。

FLAT

をクリックすると、すべての周波数の

▬

 がフラットの 状態に戻ります。

SAVE →

1 2 3 4 5 6

LOAD ←

1 2 3 4 5 6

イコライザーでセットした状態は SAVE により、6つの状態が保存可能です。
(番号1～6)

LOAD によって、SAVE した (1～6) を呼び出すことができます。

RP-U100 パネルのクローズ

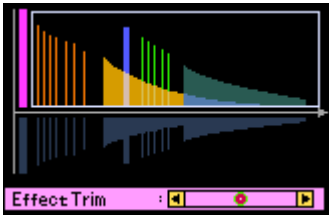


! クローズボタン ☒ または EDIT (編集) ボタンをクリックしてパネルを閉じます

RP-U100 音場プログラムパラメータガイド

エフェクトトリム : Effect Trim

HALL JAZZ CHURCH GAME MOVIE LIVE で設定可能



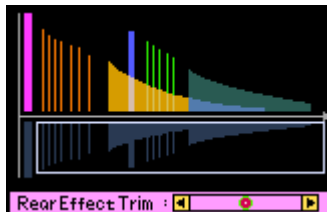
Effect Trim の設定画面

機能 : エフェクトレベル (効果音) の微調整

可変範囲	: - 3 dB ~ + 3 dB
解説	: エフェクト音全体のレベルを微調整するパラメーターです。

リアエフェクトトリム : Rear Effect Trim

HALL JAZZ CHURCH GAME MOVIE LIVE VDD(HP3D) で設定可能

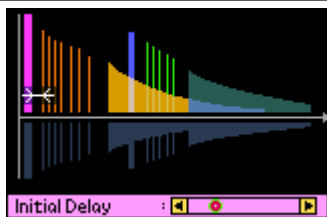


Rear Effect Trim の設定画面

機能	: リアエフェクトレベル (効果音) の微調整
可変範囲	: - 3 dB ~ + 3 dB
解説	: リアエフェクト音全体のレベルを微調整するパラメーターです。 バーチャル 3D 効果のかかる音量レベルを調整できます。

イニシャルディレイ : Initial Delay

HALL JAZZ CHURCH GAME MOVIE LIVE で設定可能

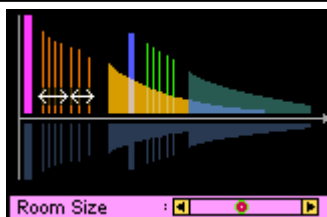


Initial Delay の設定画面

機能	: 音源と壁面との距離感を調整
可変範囲	: 1ms ~ 99ms
解説	: 直接音から初期反射音が始まるまでの時間 (遅延時間) をコントロールするパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。 Initial Delay を調整することにより、ソースの原音から周りまでの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等がコントロールできます。

ルームサイズ : Room Size

HALL JAZZ GAME MOVIE LIVE で設定可能



Room Size の設定画面

機能	: 広がり感の調整
可変範囲	: 0.1 ~ 2.0
解説	: 空間の広がり感をコントロールするパラメーターです。

解説

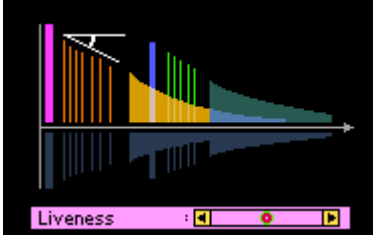
：空間の広がり感をコントロールするパラメータです。

値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音同士の間隔をコントロールすれば、広がり感を変えることができるということになります。

1.0で実測値そのまま、2.0にすると、一辺の長さが倍の空間になります。

ライブネス：Liveness

HALL JAZZ で設定可能



Liveness の設定画面

機能

：響き具合の調整

可変範囲

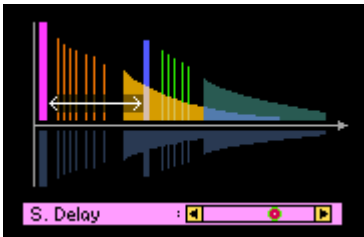
：0～10

解説

：初期反射音の減衰特性を決めるパラメータです。値を大きくするほど、反響が多くライブな音場になり、値を小さくするほど反響が少ないデッドな音場になります。実際のホールでのライブ感 / デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

サラウンドディレイ：S.Delay (Surround Delay)

ドルビーデジタル入力時	HALL JAZZ CHURCH GAME MOVIE LIVE VDD(HP3D) で設定可能
ドルビープロロジック動作時	GAME MOVIE LIVE VDD(HP3D) で設定可能



S.Delay の設定画面

機能

：サラウンド音場の遅延時間を調整

可変範囲

：ドルビーデジタル入力時 0ms～15ms
ドルビープロロジック動作時 15ms～30ms

解説

ドルビーデジタル入力時

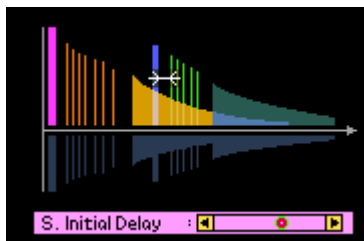
直接音とサラウンド音源との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音源が遅れて発生します。

ドルビープロロジック動作時

直接音とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。サラウンド音源は存在しません。

サラウンドイニシャルディレイ： S.Initial Delay (Surround Initial Delay)

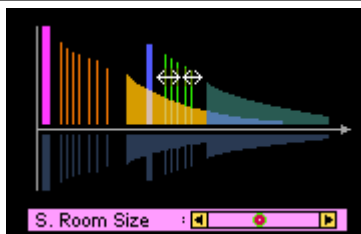
ドルビーデジタル入力時 GAME MOVIE LIVE で設定可能



- 機能 : サラウンド音場の遅延時間を調整
- 可変範囲 : 1ms ~ 49ms
- 解説 : ドルビーデジタル入力時に有効なパラメータ。
サラウンド音源とサラウンド音場との時間遅れをコントロールするパラメーターです。
値を大きくするほどサラウンド音場が遅れて発生します。

サラウンドルームサイズ： S.Room Size (Surround Room Size)

GAME MOVIE LIVE で設定可能

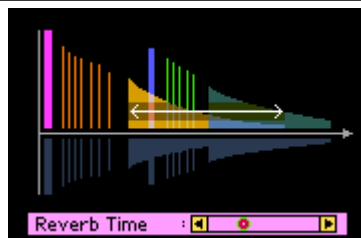


S.Room Size の設定画面

- 機能 : サラウンド音場の拡がり感の調整
- 可変範囲 : 0.1 ~ 2.0
- 解説 : サラウンド音場の拡がり感をコントロールするパラメーターです。
値を大きくするほどサラウンド音場空間が広がります。

リバーブタイム： Reverb Time

CHURCH GAME LIVE で設定可能

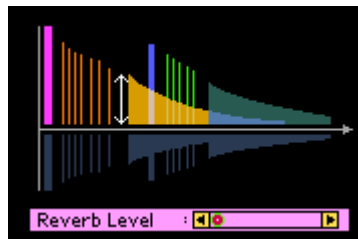


Reverb Time の設定画面

- 機能 : 余韻の長さを調整
- 可変範囲 : 1.0s ~ 5.0s
- 解説 : 後部残響音が減衰していく時間をコントロールするパラメーターです。
約1 kHzの残響音が60dB減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。
Reverb Time を調整することにより、デッド気味のソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆にライブ気味のソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるようにコントロールすることができます。

リバーブレベル : Reverb Level

CHURCH GAME LIVE で設定可能

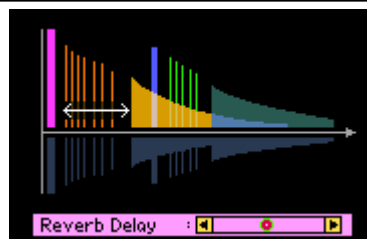


Reverb Level の設定画面

- 機能 : 余韻の強さを調整
- 可変範囲 : 0% ~ 100%
- 解説 : 後部残響音のレベルをコントロールするパラメーターです。
値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。

リバーブディレイ : Reverb Delay

CHURCH GAME LIVE で設定可能



Reverb Delay の設定画面

- 機能 : 残響音の遅延時間を調整
- 可変範囲 : 0ms ~ 250ms
- 解説 : 残響音が発生しはじめるまでの時間です。値を大きくするほど、残響音が最初の初期反射音より遅れて発生するようになります。
同じReverb Time でも、Reverb Delay を長くしていくと大きな空間の残響感になります。

**HALL**

ウィーンにある客席1700程度のシューボックス型の中ホールです。周囲の柱や彫刻により複雑な反射音を生み出し美しく豊かな響きが特徴です。

**JAZZ**

かつてニューヨークにあったライブハウスで、小ホールのような響きが特徴です。ステージに向かい中央左手寄りの音場です。

**CHURCH**

パリ近郊ロワイヨール地方にある美しいゴシック建築の修道院です。石柱毎に構成されるドーム状の多くの天井空間に残響が響きあい、余韻の美しい音場です。

**GAME**

ゲームサウンドに奥行きとサラウンド感を加えるプログラムです。迫力や臨場感のあるゲームが楽しめます。

**MOVIE**

映画のシーンの中に飛び込んでしまったように、超ワイドな空間がイメージできるスペクトルな音場です。

**LIVE**

ロックやジャズなどの熱狂的なライブ感を再現する音場です。

**VDD**

VDD(Virtual Dolby Digital)は、DOLBY DIGITALの効果を前方左右2本のスピーカーで擬似的に再現するプログラムです。DOLBY DIGITAL方式でエンコードされたDVDソフトの純粋な再生に適しています。

**HP3D**

HP3D(Head Phone 3D)は、DOLBY DIGITAL の効果をヘッドフォンで擬似的に再現するプログラムです。VDDモード時に、ヘッドフォンを挿入すると自動的に切り替わります。

メインパネル

(STANDBY 状態)


ON状態

[パネル全体イメージ付][イメージなし]

RP-U100 アプリケーションの起動


 Windows スタートメニューのプログラムに登録された、YAMAHA RP-U100 フォルダを開き RP-U100 を選択します。

[アプリケーションの起動方法解説ページ](#)




 アプリケーションのインストールが正しく行われている必要があります。

RP-U100 メインパネル

 アプリケーション起動時に、RP-U100 本体が STANDBY 状態にある場合には、アプリケーションも STANDBY 状態になります。 RP-U100 本体が ON 状態のときには、アプリケーションも ON 状態で起動します。

 RP-U100 本体とパーソナルコンピューターがUSBケーブルで接続されていない場合には、起動時に [RP-U100 が見つかりません !!](#) のエラーメッセージが表示されます。

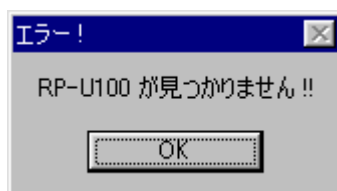
RP-U100 メインパネル機能 (STANDBY 状態)



電源管理	電源ボタン  をクリックすることにより、RP-U100 本体電源を ON にすることができます。 電源管理の解説ページ
最小化	最小化ボタン  をクリックして、アプリケーションをタスクバーへ最小化します。 最小化の解説ページ
アプリケーションの終了	終了ボタン  をクリックしてアプリケーションを終了します。 アプリケーションの終了方法に関する解説ページ

【関連項目】
[メインパネル \(ON状態\) の解説ページ](#)

起動時エラー

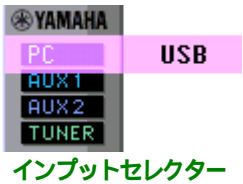
RP-U100 RP-U100 本体とパーソナルコンピューターがUSBケーブルにて接続されていない場合には **RP-U100 が見つかりません !!** のエラーメッセージが表示されます。



-  RP-U100 アプリケーションを使用する場合には、RP-U100 本体と パーソナルコンピューターを USB ケーブルで接続して下さい。
 -  RP-U100 本体と パーソナルコンピューターが USB ケーブルで接続されていても、電源プラグがコンセントに接続されていない場合はエラーメッセージが表示されます。
-

インプットセクター

RP-U100 入力ソース [PC(Personal Computer)、AUX1 ,AUX2 ,TUNER] の切り替えを行います。



入力ソース	解説
PC	<p>❗ PC (Personal Computer) からの信号を再生します。信号入力経路により3種類(USB, Digital, Analog)に分かれます。</p> <p>❗ 他の入力ソースで動作中にPCを左クリックするとPC入力に入ります。</p> <p>❗ 右クリックすると PC入力セレクトター が表示されます。</p> <div></div> <p>選択したいIPC入力をクリックします。</p>
AUX1	<p>外部機器からの信号を再生します。入力端子はデジタル (光)とアナログが用意されています。両端子に外部機器が接続されている場合には、デジタルの入力が優先となります。</p> <p>他の入力ソースで動作中に AUX1 を左クリックするとAUX1入力に入ります。</p>
AUX2	<p>外部機器からの信号を再生します。入力端子はアナログのみ用意されています。</p> <p>他の入力ソースで動作中に AUX2 を左クリックするとAUX2入力に入ります。</p>
TUNER	<p>内蔵チューナーの信号を再生します。</p> <p>他の入力ソースで動作中に TUNER を左クリックするとTUNER入力に入ります。</p>

最新情報

RP-U100 最新情報

RP-U100 アプリケーションの最新情報は以下のホームページにて入手することができます。

Plug Into YAMAHA Audio	http://www.yamaha.co.jp/audio/
--	---

RP-U100 RP-U100に関する問い合わせ

	ヤマハUSB オーディオサポートライン
電話による問い合わせ	053-460-3476
電子メールによる問い合わせ	USBAU_SUPT@avkk.yamaha.co.jp

アプリケーション動作不良のお問い合わせの際は、次の情報もあわせていただければ幸いです。

- ・ PCの機種、OS、CPU、メインメモリ容量など
- ・ 使用環境
- ・ 不具合の発生頻度
- ・ 不具合を再現させる手順

その他、ヤマハ・オーディオ・ビデオ製品に関する[ご相談、サービス等のお問い合わせはこちらまで](#)お願いします。

アンインストール

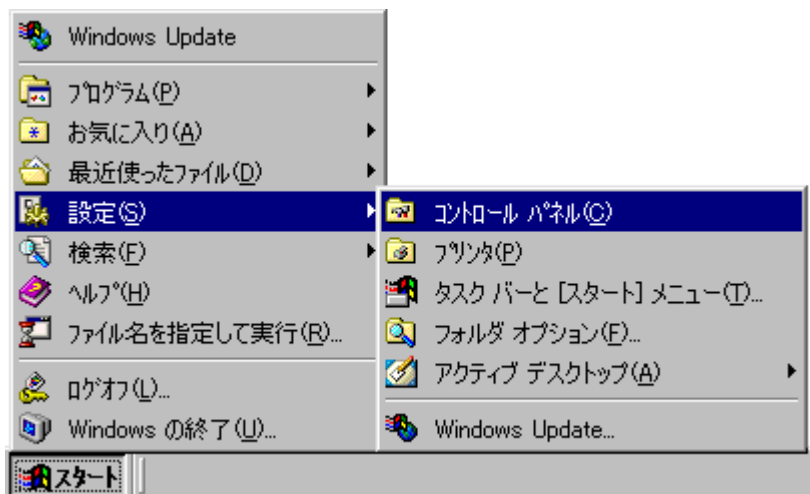
RP-U100 アンインストール方法

RP-U100 アプリケーションを終了します。



実際にアンインストールする時点では、本ヘルプ (RP-U100 Help) も終了して下さい。

コントロールパネルを開きます。



「アプリケーションの追加と削除」のアイコンをダブルクリックします。






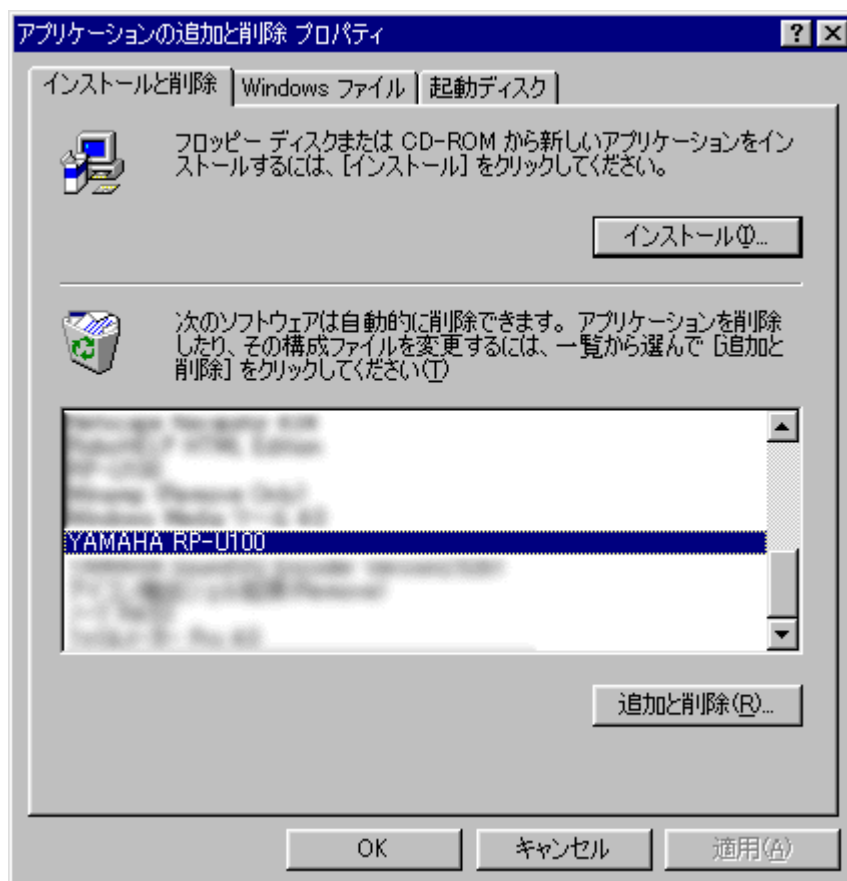
アプリケーション
の追加と削除

アプリケーションの追加と削除のプロパティ: [インストールと削除] を用いてRP-U100アプリケーションを削

削除します。

アプリケーションの追加と削除プロパティは、[ここをクリック](#)しても表示することができます。

-  RP-U100 アプリケーションと、本ヘルプ (RP-U100 Help) を終了した状態でアンインストールを開始します。
-  「YAMAHA RP-U100」を選択して、追加と削除をクリックして下さい。
-  RP-U100 アプリケーションやヘルプを起動中にアンインストールを行った場合は、起動中のアプリケーションやヘルプはアンインストールされません。
もし、このような状況になった場合には、RP-U100 アプリケーションとヘルプを終了し、RP-U100 アプリケーションとヘルプのインストール先フォルダを削除して下さい。





メインパネル (ON状態)

[STANDBY 状態](#)




[\[パネル全体イメージ付\]](#) [\[イメージなし\]](#)

RP-U100 メインパネルの機能 (ON状態)

-  メインパネル上では、同一場所のクリックでも、左クリックと右クリックで機能が異なる箇所があります。
-  本ヘルプ中の左右クリックに関する機能解説は、マウスの設定が右利き用に設定されている場合の表現になっています。
マウスが左利き用に設定されている場合は左右逆の意味合いになります。Windows コントロールパネルのマウスの設定ダイアログを確認して下さい。


Windows マウスの設定ダイアログ

機能	内容
電源管理	電源ボタン  をクリックすることにより、RP-U100 本体電源の ON/STANDBY が切り替わります。 電源管理の解説ページ
セットアップダイアログの表示	セットアップボタン  をクリックして セットアップダイアログ (SETUP DIALOG) を表示します。 セットアップダイアログ (SETUP DIALOG) の解説ページ
最小化	最小化ボタン  をクリックして、アプリケーションをタスクバーへ最小化します。 最小化の解説ページ
アプリケーションの終了	終了ボタン  をクリックしてアプリケーションを終了します。 アプリケーションの終了方法に関する解説ページ
入力ソースの切替	 <p>インプットセクター</p> <p>インプットセクターを左クリックして、入力ソース PC(Personal Computer), AUX1, AUX2, TUNER を切り替えます。 インプットセクターの解説ページ</p>
ボリュームの調整	<p>Volume Indicator</p>  <p>ボリュームインジケーター</p> <p>ボリュームインジケーターをクリックし、回転させることで音量を調節することができます。 ボリュームコントロールの解説ページ</p>
DSP の ON/OFF 切替	 <p>DSP ボタン</p> <p>DSP ボタンの上部を左クリックして、DSP 音場効果の ON/OFF を切り替えます。 DSP ボタンの解説ページ</p>
グラフィックイコライザーの表示	 <p>DSP機能が OFF の状態で、DSP ボタン下部に表示される  を左クリックして、グラフィックイコライザーを表示します。 グラフィックイコライザーの解説ページ</p>
DSP 音場セクターパネルの表示	 <p>音場アイコンの下部に表示される  を左クリックして、DSP音場セクターパネルを表示します。 DSP音場セクターパネルの解説ページ</p>
DSP 音場プログラムの選択	DSP ボタン上での右クリックによって表示される DSP 音場セクターから DSP 音場を選択することができます。 DSP 音場セクターの解説ページ

ミュート ON/OFF 切替	ミュートボタン  をクリックしてミュート(消音)の ON/OFF の切替が可能です。 ミュートボタンの解説ページ
チューニングパネルの表示	 チューニングモード時にインプットセクターに表示される  をクリックして、チューニングパネルを表示します。 チューニングパネルの解説ページ

RP-U100 アプリケーションの最小化方法



！ メインパネル上部の最小化ボタン  をクリックすると、アプリケーションが最小化され、タスクバーに入ります。




！ 元の大きさに戻すには、タスクバー内の「YAMAHA RP-U100」を左クリックするか、右クリックにより表示されるシステムメニューの「元のサイズに戻す」を選択します。








ミュート機能

RP-U100 ミュートの ON/OFF 切替




！  メインパネルの**ミュートボタン**をクリックし、ミュート(消音)機能の ON/OFF を切り替えることができます。

 RP-U100 本体、またはアプリケーション側でボリューム調整を行うと、ミュートは自動的に解除されます。
電源の ON/STANDBY 切替えを行った場合もミュートは解除されます。

ヘッドフォン未使用時		ヘッドフォン使用時	
			
MUTE OFF	MUTE ON	MUTE OFF	MUTE ON

！ ミュートはアプリケーションからのみ ON にすることができます。

 RP-U100 本体にはミュート ON 機能はありません。

動作環境

【必要システム】

RP-U100

オペレーティングシステム

Microsoft® Windows® 98 日本語版

RP-U100

CPU

Pentium MMX 200MHz 以上のCPU 及び相当品

RP-U100

メモリ

32MB以上 (64MB以上を推奨)

RP-U100

ハードディスク

20MBの空き容量が必要

RP-U100

CD ドライブ

CD-ROM ドライブ又はDVD-ROM ドライブ

RP-U100

ディスプレイ

640x480ドット以上で256色以上の解像度を備えたビデオディスプレイアダプタ

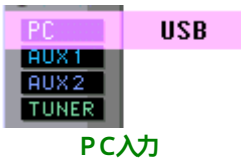
RP-U100

その他

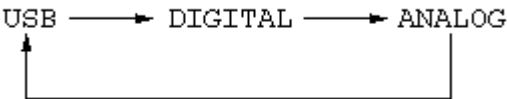
USB 規格Ver1.0 に対応している USB ポート

-
- Microsoft、Windows は米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
 - Windows® 98の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 operating system です。
 - Pentiumは、米国Intel Corporationの登録商標です。


RP-U100 PC (Personal Computer)入力



! インプットセレクタでPC入力に入った後、再度PC をクリックすることにより、以下のように信号入力経路が切り替わります。



入力信号	機能
USB	パーソナルコンピューターから USB ケーブルを通して送られてくるデジタル信号を再生します。 この入力ソースで再生するためにはパーソナルコンピューターと RP-U100 本体をUSB ケーブルで接続し、パーソナルコンピューター 側の設定として再生信号の出力設定が必要です。 USBケーブルによる接続解説ページ
DIGITAL	RP-U100 本体の PC-DIGITAL 入力端子に入力されたデジタル信号を再生します。 入力端子は同軸と光があり、両端子に入力信号がある場合は、光端子優先で自動切替します。
ANALOG	RP-U100 本体の PC-ANALOG 入力端子に入力されたアナログ信号を再生します。

 PC入力時における USBキャプチャー 機能はありません。
[USBキャプチャーの解説ページ](#)

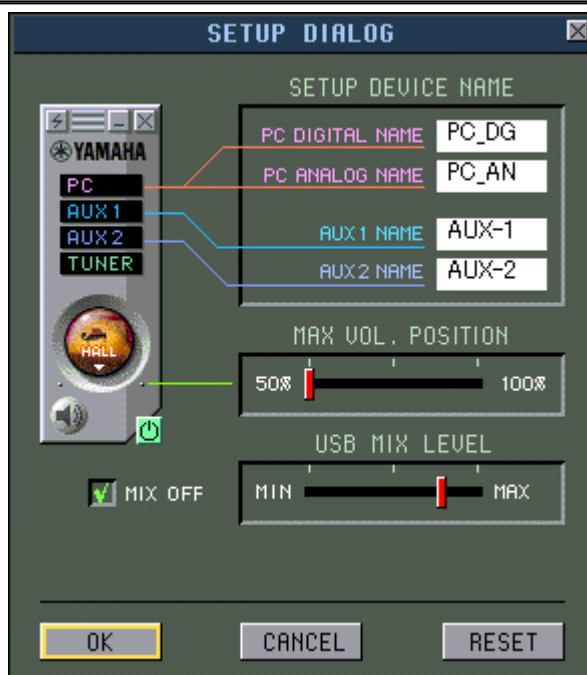
RP-U100 アプリケーション パネル一覧

メインパネル



アプリケーションのメインとなるパネルです
各パネルの表示や電源管理などを行います
[解説ページ](#)

セッティングダイアログ



各種パラメーターのセッティングを行います

[解説ページ](#)

チューニングパネル
(周波数表示モード)

マニュアル選局などを行います

[解説ページ](#)

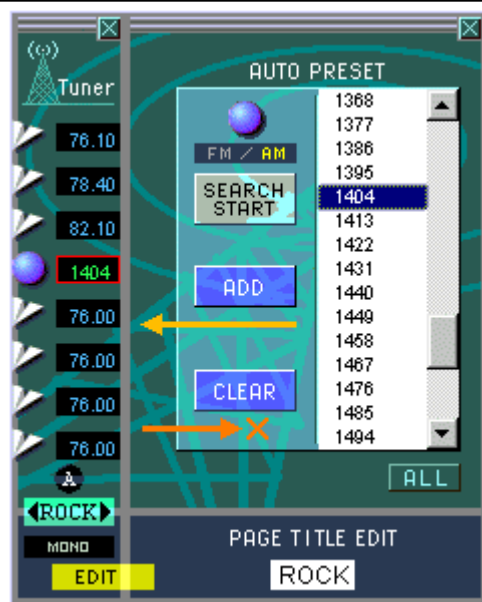
チューニングパネル (プリセットモード)



プリセット局の選択などを行います

[解説ページ](#)

プリセット登録パネル



プリセット登録を行います

[解説ページ](#)

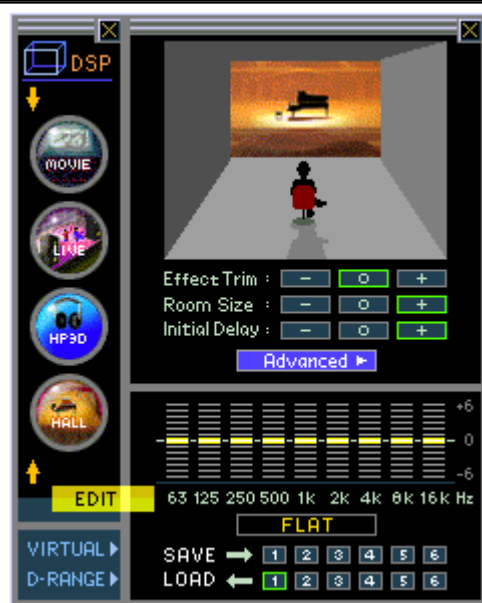
DSP音場セレクトーパネル



DSP音場プログラムの選択などを行います

[解説ページ](#)

DSP音場パラメーター設定パネル



各種DSPパラメーターの設定などを行います

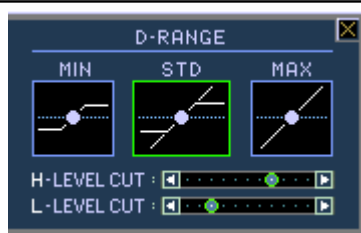
[解説ページ](#)

バーチャル 3Dパラメーター設定パネル



バーチャル 3Dの各種パラメーターのセットアップを行います
[解説ページ](#)

ダイナミックレンジ設定パネル



ダイナミックレンジの設定を行います
[解説ページ](#)

電源管理

RP-U100 電源の ON/STANDBY 切替



！メインパネルの**電源ボタン**  をクリックして、本体電源の **ON/STANDBY** を切り替えることができます。

電源状態	意味
STANDBY	電源プラグがコンセントに接続され、本体電源スイッチまたはアプリケーションの電源ボタンによりSTANDBYにした状態
ON	電源プラグがコンセント接続され、本体電源スイッチまたは、アプリケーションの電源ボタンによりONにした状態
OFF	電源プラグがコンセントから抜かれている状態


[メインパネル \(STANDBY 状態\) の解説ページ](#)
[メインパネル \(ON 状態\) の解説ページ](#)

アプリケーション使用前の準備

RP-U100 RP-U100 本体とパーソナルコンピューターとの USB ケーブルによる接続を確認

！ RP-U100本体 とパーソナルコンピューター をUSBケーブルによって接続して下さい。

[USB ケーブルによる接続解説ページ](#)

 USB ケーブルによる接続が行われていない場合には、アプリケーションによるRP-U100 本体のコントロールは出来ません。

RP-U100 ディスプレイ設定の確認



! コントロールパネルの画面のプロパティの設定が、256色以上になっていることを確認して下さい。
[Windows 画面の設定ダイアログ](#)

チューニングパネル
(プリセットモード)

[\[パネル全体イメージ付\]](#)[\[イメージなし\]](#)

RP-U100

チューニングパネル (プリセットモード)の表示

! 周波数表示モードのチューニングパネルで表示される **MANUAL** の   をクリックします。
[チューニングパネル \(周波数表示モード\)の解説](#)

RP-U100



プリセットページ

! プリセットページでは、お好みの局の周波数を**ページ**へ登録することで、後から簡単に局の呼び出しが可能になります。
! プリセット登録により作成されるページは、**ページ名**と**ページタイトル**を持ちます。



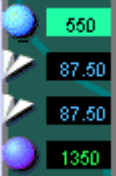



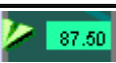



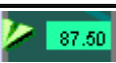



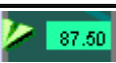
A・・・ページ名
ROCK・・・ページタイトル (編集可能)















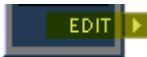
! RP-U100 本体で A ~ E の 5ページ、アプリケーション側では A ~ Z の 26ページ分の登録が可能です。
各ページは 8局の登録が行えます。
[プリセット登録パネルの解説ページ](#)

! ページの移動は、  をクリックします。
・・・ MANUAL A B ... MANUAL A

RP-U100


パネル各部機能

パネル構成	機能										
<div>登録周波数の表示</div> 	<div>! プリセット登録された周波数を表示します。</div> <table><tr><td></td><td></td></tr><tr><td>AM アイコン</td><td>FM アイコン</td></tr></table> <div>! AM, FM アイコンが周波数部分をクリックして局の選択を行います。</div> <table><tr><td colspan="2">選択された周波数の表示</td></tr><tr><td>AM</td><td>FM</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> <div>! 各ページに 8局登録可能です。 プリセット登録パネルの解説ページ</div>			AM アイコン	FM アイコン	選択された周波数の表示		AM	FM		
											
AM アイコン	FM アイコン										
選択された周波数の表示											
AM	FM										
											
プリセットページ名	<div>! プリセットページ名を表示します。</div>										

	<p>❗ RP-U100 本体では A ~ E の 5 ページ分の登録が可能です。</p> <p>RP-U100 アプリケーションでは A ~ Z の 26 ページ分の登録が可能です。</p>								
<p>プリセットページタイトル</p> <p></p>	<p>❗ プリセットページのタイトルを表示します。</p> <p>❗ ページタイトルは自由に編集することができます。</p> <p>プリセット登録パネルの解説ページ</p> <p>❗   をクリックすると、各プリセットページを表示します。</p>								
<p>FM モードの表示</p> <p></p>	<p>❗ FM の受信状態を表示します。</p> <table border="1"><tr><td rowspan="2">FM オートステレオ</td><td></td><td>受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します。</td></tr><tr><td></td><td>ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります。</td></tr><tr><td>FM モノラル</td><td></td><td></td></tr></table>	FM オートステレオ		受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します。		ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります。	FM モノラル		
FM オートステレオ			受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します。						
		ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります。							
FM モノラル									
<p>プリセット登録パネルの表示ボタン</p> <p></p>	<p>❗ EDIT (編集) ボタンをクリックすると、プリセット登録パネルを表示します。</p>								

RP-U100

パネルのクローズ

! クローズボタン  をクリックしてパネルを閉じます。



プリセット登録パネル

[パネル全体イメージ付][イメージなし]

RP-U100

プリセット登録パネルの表示



- ❗ チューニングパネルの EDIT (編集) ボタンをクリックします。
[チューニングパネル \(周波数表示モード\) の解説ページ](#)
[チューニングパネル \(プリセットモード\) の解説ページ](#)
- 📶 周波数表示モードから EDIT ボタンをクリックすると、登録パネル脇に自動的にプリセットページが表示されます。

RP-U100

プリセット登録

- ❗ 周波数をプリセットページへ登録することができます。
- ❗ プリセットページは RP-U100 本体で A ~ E の 5 ページ分、RP-U100 アプリケーションでは A ~ Z の 26 ページ分の登録が可能です。
- ❗ 各ページは 8 局分の登録が行えます。

RP-U100

プリセット登録パネル各部の機能

パネル構成	機能
FM/AM の切替 FM / AM	❗ FM、AM をクリックして、サーチ (検索) する周波数のバンド (FM/AM) を選択します。
周波数の自動検索 (オートサーチ) SEARCH START	❗ SEARCH START ボタンをクリックすると、周波数の自動検索 (オートサーチ) がスタートします。 ❗ オートサーチを途中で停止する場合は、同一ボタンの SEARCH STOP をクリックします。 📶 受信している放送局の電波が弱い場合などには、オートサーチによる選局ができないことがあります。
局の追加 ADD	❗ 登録したい周波数とページの登録場所を指定した後、ADD ボタンをクリックすると周波数がプリセットページに登録されます。 周波数の登録方法の解説
局の削除 CLEAR	❗ プリセットページの削除したい周波数を選択した後、CLEAR ボタンをクリックするとその周波数を削除します。 登録周波数の削除方法の解説
オートサーチ結果の周波数表示 1431 1440 1449 1458 1467 1476	❗ 自動検索 (オートサーチ) で検出された周波数を表示します。 ❗ 結果は昇順で表示されます。

1422					
周波数の全検索 ALL	<div><div>1ステップごとのすべての受信周波数の検索を可能にします。</div><div>全検索を行うには、ALL ボタンをクリックします。</div><table><tr><th>全検索の選択状態</th><th>全検索の非選択状態</th></tr><tr><td>ALL</td><td>ALL</td></tr></table><div>全検索が選択された状態で、SEARCH START ボタンをクリックします。</div><div>全検索を途中で停止するには、SEARCH STOP をクリックします。</div></div>	全検索の選択状態	全検索の非選択状態	ALL	ALL
全検索の選択状態	全検索の非選択状態				
ALL	ALL				
ページタイトルの入力 PAGE TITLE EDIT ROCK	<div><div>プリセットページのタイトルを入力します。</div><div>入力文字は、半角英数で最大4文字です。</div></div>				

RP-U100 周波数の登録

- プリセットページの をクリックし 周波数を登録するページを表示します。
- ページに追加 (登録) したい周波数と、ページに追加する位置を選択します。

追加位置	追加周波数

- FM の周波数を登録する場合は、登録局の FM モード (FM オートステレオ、FM モノラル) を選択します。 FM モード切替ボタン STEREO をクリックして選択します。

STEREO FM オートステレオ	受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します。 ただし、ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります。
MONO FM モノラル	FM 放送を強制的にモノラル受信します。FM オートステレオ受信中に雑音が多いときは、FM モノラルで登録して下さい。

- ADDボタン がアクティブになったことを確認して、クリックします。

ADD	ADD
非アクティブ	アクティブ

- 同様に、各ページに 8 局分登録が可能です。

RP-U100 登録周波数の削除

- プリセットページの削除したい周波数を選択します。



削除したい周波数

- CLEAR ボタン がアクティブになったことを確認して、クリックします。

<div>CLEAR</div>	<div>CLEAR</div>
非アクティブ	アクティブ

 プリセットページが A ~ E の場合、削除後の周波数は FM 76.0 にセットされます。
F ~ Z の場合は削除されます。

RP-U100 **プリセット登録パネルのクローズ**



 クローズボタン  または EDIT (編集) ボタンをクリックしてパネルを閉じます。

DSP 音場セクター



DSP ボタン

❗ DSP ボタン上での右クリックにより、DSP 音場セクターを表示させることができます。

🔧 DSP ボタン内部での左クリックの機能に関しては、DSP ボタンの解説ページを参照して下さい。

[DSP ボタンの解説ページ](#)






! 選択したい音場プログラム名をクリックするとDSP音場プログラムが切り替わります。

アプリケーションの終了

RP-U100 アプリケーションの終了方法



! メインパネル上部にある終了ボタン  をクリックし、アプリケーションを終了します。

! 以下の方法でもアプリケーションの終了が可能です。

システムメニューからの終了




! タスクバーのアイコンを右クリックして、システムメニューから「X 閉じる(C)」を選択する

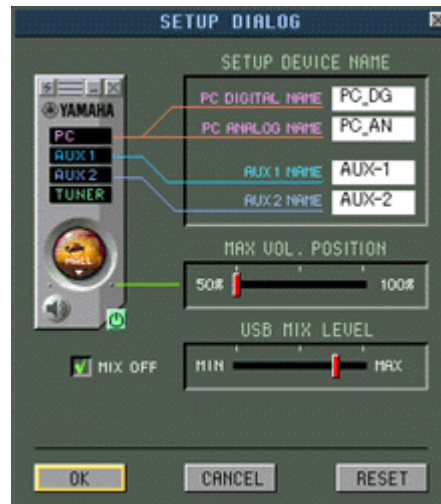
セットアップボタン

RP-U100

セットアップダイアログ (SETUP DIALOG) の表示



- ! メインパネルのセットアップボタン  をクリックし、**セットアップダイアログ**を表示することができます。
[セットアップダイアログの解説ページ](#)




セットアップダイアログ


[[パネル全体イメージ付](#)] [[イメージなし](#)]

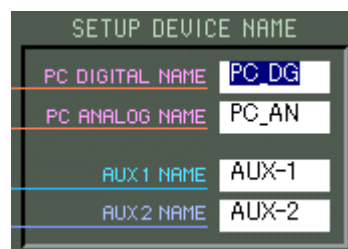
RP-U100 セットアップダイアログ (SETUP DIALOG) の表示



- ! メインパネル上部の、セットアップボタン  をクリックします。

RP-U100 SETUP DEVICE NAME の設定項目


- ! RP-U100 本体に接続されているオーディオ機器の名前を自由に設定できます
 入力文字は半角英数を使用して下さい。最大5文字までの入力が可能です。




PC DIGITAL NAME	! PC-DIGITAL に接続されたオーディオ 機器名を設定します。	
	入力端子	デジタル (同軸と光)
	優先関係	光端子を優先で自動切替
PC ANALOG NAME	! PC-ANALOG に接続されたオーディオ 機器名を設定します。	
	入力端子	アナログ
AUX1 NAME	! AUX1 に接続されたオーディオ 機器名を設定します	
	入力端子	デジタル (光)とアナログ
	優先関係	デジタル優先で自動切替
AUX2 NAME	! AUX2 に接続されたオーディオ 機器名を設定します	
	入力端子	アナログ

RP-U100 USB MIX LEVEL の設定


! USB 以外の入力を選択している場合にも、それらの入力信号と、USB ケーブルによって接続されたパーソナルコンピュータからの音楽信号をミックスして聴く事ができます。






! USB 以外の入力を選択中に、USB ケーブルで接続されたパーソナルコンピュータからの音楽信号はミックスされません。




! USB 以外の入力を選択中に、USB ケーブルで接続されたパーソナルコンピュータからの音楽信号をミックスさせた音量レベルの設定が可能です。

 USB 以外の入力からの音楽信号に対しては DSP 音場プログラムの効果が付加されますが、ミックスさせる パーソナルコンピュータからの音楽信号には DSP音場プログラムの効果は付加されません。



!  をクリックし、MAX 側にスライドさせると、USB ケーブルで接続されたパーソナルコンピュータからの音楽信号をミックスされる割合が高くなります。
MIN 側にスライドさせると、パーソナルコンピュータからの音楽信号の割合が低くなります。
(初期設定レベルでは、 の表示になります)

 MAX 側へスライドさせても、AUX1, AUX2, TUNER 入力の音量が下がることはありません。



RP-U100 MAX VOL POSITION の設定

! アプリケーションで操作できるボリュームの上限を設定します。











! ボリュームインジケータの回転上限を、50% ~ 100% の間で設定することができ

	<p>ます。</p> <p>をクリックして、左右にスライドさせて下さい。</p> <p>(初期設定レベル [50%] では、 の表示になります)</p> <p> アプリケーションからボリュームをコントロールすると、カーソルの急激な移動により、音量が突然大きくなる場合があります。MAX VOL POSITION の設定に注意して下さい。</p>
--	--

RP-U100 OK, CANCEL, RESET ボタン

	編集内容を保存します。(ダイアログを閉じます)
	編集内容をキャンセルします。(ダイアログを閉じます)
	内容を初期値にセットします。

RP-U100 ダイアログのクローズ

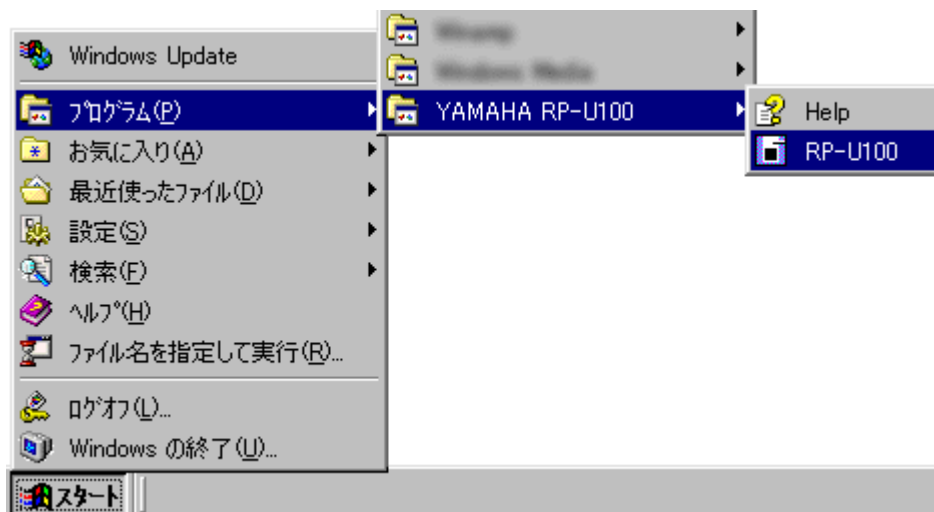
-  OK, CANCEL ボタンをクリックするか、クローズボタン  をクリックして、セットアップダイアログを閉じます。
-  編集内容を保存する場合には、OK ボタンをクリックしてください。
-

アプリケーションの起動方法

起動方法 1

Windowsのスタートメニューから起動します。 スタートメニューのプログラムに表示される「YAMAHA RP-U100」を選択すると、「RP-U100」と「Help」が表示されます。

RP-U100 アプリケーションを起動するには、「RP-U100」を選択し、ヘルプを起動するには「Help」を選択します。



起動方法 2

デスクトップにショートカットを作成した場合には、RP-U100 アプリケーションのショートカットをダブルクリックします。



ショートカットアイコン

起動方法 3

RP-U100 アプリケーションのインストール先フォルダを開き、RP-U100. のアイコンダブルクリックします。



RP-U100 アプリケーションのアイコン

トラブルシューティング**【アプリケーション全般に関するトラブル】**

アプリケーションの起動方法がわからない	アプリケーションの起動方法の解説ページ を参照して下さい。
アプリケーションが起動しない	<p>【以下の項目を確認して下さい】</p> <p>パーソナルコンピュータと RP-U100 本体が USB ケーブルで接続されていませんとアプリケーションは起動しません。USB ケーブルによる接続を確認して下さい。</p> <p>USB ケーブルによる接続の解説ページ</p> <p>RP-U100 本体の 電源コードが、家庭用コンセントに接続されていないと、パーソナルコンピュータと RP-U100 本体が USB ケーブルで接続されていても、アプリケーションは起動しません。 電源コードの 接続を確認して下さい。</p>
アプリケーションの終了方法がわからない	アプリケーションの終了方法の解説ページ を参照して下さい。
アプリケーションの操作方法がわからない	<p>本ヘルプファイルには、アプリケーションの操作方法に関する解説が掲載されています。</p> <p>「目次」から該当する解説ページをたどるか、「検索、キーワード検索」機能などを利用して該当するページを検索して下さい。</p> <p>ヘルプ使用方法の解説ページ</p>
アンインストール方法がわからない	アンインストールの解説ページ を参照して下さい。

【サウンド関連のトラブル】

音が出ない	<p>【以下の項目を確認して下さい】</p> <p>RP-U100 本体の電源が STANDBY (OFF) になっていると音がでません。電源を ON にして音がでるか確認して下さい。</p> <p>アプリケーションでミュート ON の状態にしますと音がでません。 また、RP-U100 では、ヘッドフォン使用時においても、ミュート機能が働きます。ミュートが ON 状態になっていないか確認して下さい。 ミュート機能の解説ページ</p> <p>ヘッドフォンをヘッドフォン端子に接続すると、スピーカーからは音が流れません。スピーカーから音を聴く場合には、ヘッドフォン端子からヘッドフォンを抜いて下さい。</p> <p>ボリュームが低すぎますと、音が聴こえづらくなる場合があります。ボリュームを調整し、音が出ているか確認して下さい。 ボリューム調整の解説ページ</p> <p>音楽再生ソフトウェア、または、RP-U100 本体に接続されたオーディオ機器などで、再生操作を行っていない場合は再生音が流れません。 使用している音楽再生ソフトウェアやオーディオ機器で、再生が行われているか確認して下さい。</p> <p>チューナーの受信状況がよい場合や、選局が正しく行われていない場合などでは、受信音が聴こえづらくなります。チューナーの選局については、チューニングパネルの解説ページを参照して下さい。 アンテナの接続方法などに関しては、取扱説明書を参照して下さい。</p> <p>オーディオ配線やUSBケーブルなどの接続が正しく行われていないと、音がでません。各オーディオ機器やパーソナルコンピューターとの接続が正しく行われているか確認して下さい。</p>
PC 入力を選択しているのに、パーソナルコンピューターからの音が聞こえない。	<p>PC 入力でも、USB を選択せずに、PC DIGITAL、PC ANALOG を選択している場合には、セットアップダイアログの、[USB MIX LEVEL] の設定によって、パーソナルコンピューターからの音が聴こえない、または聴こえづらくなる場合があります。 詳しくは、セットアップダイアログの [USB MIX LEVEL] の設定項目の解説を参照して下さい。 セットアップダイアログ [USB MIX LEVEL] の解説ページ</p>
様々な音が混ざって聞こえる	<p>セットアップダイアログの [USB MIX LEVEL] の設定によっては、パーソナルコンピューターから流れてくる音と、AUX1、AUX2、TUNER 入力から流れてくる音がミックスされます。 初期設定では、パーソナルコンピューターからの音が、AUX1、AUX2、TUNER 入力の音とミックスされるようにセットアップされています。 パーソナルコンピューターから流れてくる音をミックスさせたくない場合には、セットアップダイアログの [USB MIX LEVEL] の設定項目で、[MIX OFF] を選択して下さい。 セットアップダイアログ [USB MIX LEVEL] の解説ページ</p>
ボリュームインジケーターが最後まで回らない	<p>アプリケーションでコントロールできるボリュームの上限はセットアップダイアログの [MAX VOL POSITION] 設定により変更が可能です。 初期設定では、ボリュームインジケーターが半回転 (50%) まで操作できるようにセットアップされています。 [MAX VOL POSITION] を変更することにより、ボリュームインジケーターを半回転以上 (50% ~ 100%) 回転させることができます。 セットアップダイアログ [MAX VOL POSITION] の解説ページ</p>
左右のボリュームの音量が違う	<p>バーチャル 3D パラメーター 設定パネルの Balance (バランス) の設定項目で、音量バランスが中央に設定されていない場合には、左右の音量レベルが異なります。 Balance (バランス) の設定項目を確認して下さい。 バーチャル 3D パラメーター 編集パネル [Balance] の解説ページ</p>
USB キャプチャーによる録音ができない	<p>パーソナルコンピューター側で使用するレコーダーの設定が正しく行われていない場合には録音できません。 データの録音設定については、USB キャプチャーのデータの録音方法のページを解説を参照して下さい。</p>

【その他】

Windows に関するトラブル

Windows に関するトラブルは、[Windows ヘルプ](#)を参照するか、Windows 付属の解説書をご覧ください。

TUNER入力

RP-U100 TUNER入力



TUNER入力

! TUNER入力時に、インプットセクターに表示される  をクリックすると、チューニングパネルが表示されます。

RP-U100 チューニング

! チューナー機能には周波数を直接変化させて選局を行う[周波数表示モード](#)と、任意に登録した局の中から選択する[プリセットモード](#)があります。

チューナーモード	機能
周波数表示モード	<ul style="list-style-type: none">・ マニュアル選局・ オート選局
プリセットモード	<ul style="list-style-type: none">・ 周波数の登録 (プリセット登録)・ プリセット局の呼び出し

RP-U100 USB キャプチャー

! TUNER入力の場合、TUNERの再生信号がキャプチャーされます。
[USBキャプチャーの解説ページ](#)

チューニングパネル
(周波数表示モード)

[[パネル全体イメージ付](#)][イメージなし]

RP-U100 チューニングパネルの表示





！メインパネルのインプットセレクトでTUNER入力を選択し、 をクリックすると、**チューニングパネル (周波数表示モード)**が表示されます。


RP-U100 チューニングパネル (周波数表示モード)の各部機能

パネル構成	機能									
<div>FM / AM切替ボタン</div> <div></div>	<div><div>！</div>FM、AMを切り替えます。</div> <div>FM / AMをクリックして選択します。</div> <div><div>！</div>FMオートステレオ、FMモノラルの切り替えは、FMモード切替ボタンで行います。</div>									
<div>オートスキャンボタン</div> <div></div>	<div><div><div>！</div>局のオートスキャン (自動検索)を行います。</div><div><div></div>受信している放送局の電波が弱い場合などには、オートスキャンによる選局ができないことがあります。</div></div> <div><div>オートスキャン機能</div><div>スキャンボタンをクリックすることにより局のサーチ (検索)を開始します。</div><div>局を発見するとサーチが停止します。</div><div>サーチ中にスキャンを停止するには、再びスキャンボタンをクリックします。</div><div>局が発見できなかった場合はサーチ開始周波数で停止します。</div></div>									
<div>マニュアル選局ボタン</div> <div></div>	<div><div><div>！</div>マニュアル (手動)で選局を行います。</div><div><div>マニュアル選局操作</div><div><div> および を1回クリックする度に周波数が1ステップずつ上下します。</div><div>そのまま押しつづけると、周波数が上下に移動します。</div><div>最下位の周波数からさらに下がると最上位の周波数となり、最上位の周波数からさらに上がると最下位の周波数となります。</div></div></div></div>									
<div>周波数範囲の表示</div> <div></div>	<div><div><div>！</div>周波数範囲を表示しています。</div><div><div>！</div><div></div>により、受信している周波数位置を表します。</div><div>マニュアル選局やオートサーチでチューニングしている時に上下に移動して、受信している周波数を指します。</div></div> <div><div>受信周波数</div><table><tr><th>バンド</th><th>周波数範囲</th><th>1ステップあたりの周波数</th></tr><tr><td>AM</td><td>531 ~ 1611 kHz</td><td>9 kHz</td></tr><tr><td>FM</td><td>76.0 ~ 90.0 MHz</td><td>0.1 MHz</td></tr></table></div>	バンド	周波数範囲	1ステップあたりの周波数	AM	531 ~ 1611 kHz	9 kHz	FM	76.0 ~ 90.0 MHz	0.1 MHz
バンド	周波数範囲	1ステップあたりの周波数								
AM	531 ~ 1611 kHz	9 kHz								
FM	76.0 ~ 90.0 MHz	0.1 MHz								
<div>受信周波数の表示</div> <div></div>	<div><div><div>！</div>受信周波数を数値で表示します。</div></div>									
<div>プリセットチューニングパネルの表示ボタン</div> <div></div>	<div><div><div>！</div><div></div>をクリックして、プリセットパネル (ページ)を表示することができます。</div><div><div>！</div>プリセットページは、RP-U100 本体で A ~ E の5ページ、アプリケーション側では A ~ Z の26ページ分の登録が可能です。</div><div>各ページには8局登録することができます。</div><div>プリセットモード(ページ)の解説ページ</div></div>									
	<div><div><div>！</div>FM モード切替ボタンをクリックして、FM オートステレオ、FM モノラル、の選択を行います。</div><div><table><tr><th>選択モード</th><th>内容</th></tr><tr><td></td><td></td></tr></table></div></div>	選択モード	内容							
選択モード	内容									

FMモード切替ボタン 	FM オートステレオ			受信した局がステレオ放送の場合は、自動的にステレオ受信します。
				ステレオ放送の局でも、電波が弱いときはモノラル受信に切り替わる場合があります。
	FM モノラル			FM 放送を強制的にモノラル受信します。FM オートステレオ受信中に雑音が多いときは、FM モノラルで受信してください。
プリセット登録パネルの表示ボタン 	 EDIT (編集) ボタンをクリックすると、プリセット登録パネルが表示されます。 プリセット登録パネルの解説ページ			

RP-U100 チューニングパネルのクローズ

 クローズボタン  をクリックしてパネルを閉じます。

 オートスキャン中にチューニングパネルをクローズしても、TUNERモードの状態では、オートスキャンは局を発見するかスキャン開始周波数へ戻るまで停止しません。（他入力に切り替えるとオートスキャンは停止します）

USB キャプチャー

RP-U100 USB キャプチャーとは


RP-U100 本体のアナログ端子に入力されたアナログ信号をA/D変換し、USBケーブルに出力することで、パーソナルコンピュータ側のサウンドレコーダー等のソフトウェアでデータの録音を可能にします。

RP-U100 キャプチャーされる入力端子


インプットセクターにより選択された入力によって、キャプチャーされる信号端子が異なります。


[インプットセクターの解説ページ](#)


入力	キャプチャーされる入力端子
AUX1	AUX1 - ANALOG 端子
AUX2	AUX2 - ANALOG 端子
TUNER	TUNER の再生信号


 PC 入力時におけるキャプチャー機能はありません。

RP-U100 データの録音方法

 RP-U100 アプリケーションには、録音機能はありません。使用するレコーダーの解説を参照して下さい。


 USBキャプチャー機能により、パーソナルコンピュータで録音される音はソースの原音です。DSP音場プログラムの効果は録音されません。


 キャプチャー可能なサウンドは (44.1 kHz, 16 ビット、ステレオ) となっています。使用するレコーダーの設定を確認して下さい。

 録音を行う際には、他のアプリケーションをすべて終了して下さい。

他のアプリケーションの起動中に USBキャプチャーによる録音を行うと、正しく録音されない場合があります。

RP-U100 キャプチャーの補足

 デジタル入力信号をキャプチャーすることはできません。

 AUX1-DIGITAL 端子再生中にキャプチャーを開始すると、キャプチャーされる入力端子は AUX1-ANALOG に自動的に切り替わります。

キャプチャーが終了すると自動的にデジタルに戻ります。

USBケーブルによる接続

RP-U100 RP-U100 本体とパーソナルコンピューターをUSBケーブルで接続する場合、接続手順について特に制限はありませんが、以下に示すような手順で行うことを推奨します。

接続手順

1	本体の電源プラグを家庭用電源コンセントに接続し、ON 状態または STANDBY 状態にします。
2	パーソナルコンピューターを起動します。
3	RP-U100 本体とパーソナルコンピューターをUSBケーブルで接続します。

接続確認

1	Windows のコントロールパネルからマルチメディアを開き、オーディオタグを選択します。 <u>ここをクリック</u> すると、コントロールパネルのオーディオタグを開きます。
2	再生 録音の「優先するデバイス」として、「YAMAHA RP-U100 USB Audio」を選択します。
3	RP-U100 アプリケーションを起動し、RP-U100 本体をコントロールできることを確認します。
4	パーソナルコンピューター上でオーディオ再生 (CD, MDI, WAVE 等)を行い、RP-U100 本体でそれらの音出力されることを確認します。

RP-U100 USBの切断についても、手順に特に制限はありませんが、以下の手順を推奨します。

切断手順

1	パーソナルコンピューターの電源を OFF にします。
2	RP-U100 本体の電源を STANDBY (OFF) にします。
3	RP-U100 本体とパーソナルコンピューターを接続している USBケーブルを抜きます。

バーチャル 3Dパラメーター設定パネル

[パネル全体イメージ付] [イメージなし]

RP-U100 バーチャル 3Dパラメーター 設定パネルの表示



- ❗ DSP音場セクターパネルの **VIRTUAL** をクリックします。
- 🔊 DSP音場セクターパネルが表示されていなければなりません。



DSP音場セクターパネルは、メインパネルの音場アイコンの下部に表示される をクリックすると表示されます。

[DSPボタンの解説ページ](#)

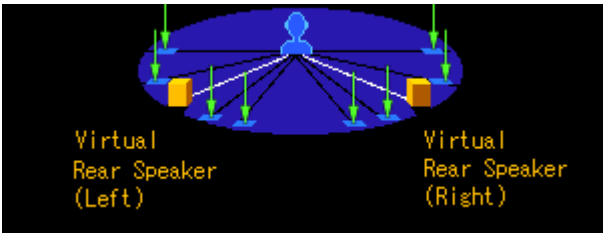
RP-U100 バーチャル 3Dパラメーター

バーチャル 3Dパラメーター	
仮想リアスピーカーポジション (Virtual Rear Speaker Position)	<p>仮想リアスピーカーのポジションを設定します。</p> 
パーソナルセッティング (Personal Setting) Main & Sub	<ul style="list-style-type: none">❗ バーチャル 3Dでは、部屋の形状の違いや、リスニングのポジションなどの影響によって、音場効果が環境ごとに異なります。❗ この環境の違いによって、仮想リアスピーカーの位置は、設定画面で表示している位置と完全には一致しません。❗ Main と Sub のパラメーターは、個人が最も快適に感じる仮想リアスピーカーの位置を調整するためのものです。 お好みに合わせてパラメーターを変化させて下さい。
バランス (Balance)	<p>左右のスピーカーの音量バランスを設定します。</p>

その他	
リスニングポジション (Listening Position)	<ul style="list-style-type: none">❗ リスナーが実際に音を聴く位置を意味します。❗ RP-U100側で設定するパラメータはありませんが、音を聴く場所によってバーチャル 3Dの効果は大きく変わります。

RP-U100 [仮想リアスピーカーポジション \(Virtual Rear Speaker Position\) の設定](#)

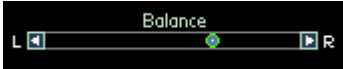
- ❗ 仮想リアスピーカーポジション (Virtual Rear Speaker Position) の設定は、下図で示した の個所をクリックするか、直接仮想リアスピーカーをクリックして設定したい個所へ移動させます。





バーチャルリアスピーカーは左右対称にセットされます。

RP-U100 **バランス (Balance) の設定**



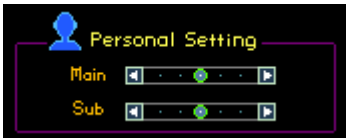
を直接ポインタでスライドさせるか、左右の矢印をクリックして調節します。



バランスのセンター 値の表示

バランスは、左右それぞれ最大にセットした場合でも、片側の音が完全に流れなくなることはありません。

RP-U100 **パーソナルセッティング (Personal Setting [Main & Sub]) の設定**



を直接ポインタでスライドさせるか、左右の矢印をクリックして調節します。

RP-U100 **テストトーン**

設定したリアスピーカーのポジションを確認します。



TEST TONE START	START ボタンをクリックすると、スピーカーをセッティングした位置でテスト音が流れます。
TEST TONE STOP	STOP をクリックすると、テストトーンが終了します。

RP-U100 **パネルのクローズ**

クローズボタン または **VIRTUAL** をクリックしてパネルを閉じます。

ボリューム

RP-U100 ボリュームの調整

Volume Indicator



ボリュームインジケータ

ボリュームのコントロール



！ ボリュームインジケータ をクリックします。



ボリュームインジケータが選択され、赤い表示になったことを確認します。

！ 右回転 (時計回り) でボリューム大、左回転 (反時計回り) でボリューム小となります。

DSP ボタンの外側で、カーソルポインタを円周上に回転させるとボリュームインジケータが回転します。



カーソルポインタを回転させる位置は、DSP ボタンの外側であれば離れてもかまいません。

- ❗ アプリケーションからコントロールできるボリュームの上限はセットアップダイアログの設定により変更できます。
 - 🔧 RP-U100 本体のボリューム操作によって、アプリケーションで操作できるボリュームの上限値を超えた場合には、アプリケーションで再びボリュームを変更しようとすると、一旦アプリケーションで操作可能な上限値にセットされます。
 - 🔧 アプリケーションからボリュームをコントロールすると、カーソルの急激な移動により、音量が突然大きくなる場合があります。
セットアップダイアログの MAX VOLUME POSITION の設定に注意して下さい。
[セットアップダイアログの解説ページ](#)
-



RP-U100 を Macintosh または Microsoft Windows[®] 2000 Professional でご使用になる場合の 追加説明

Macintosh コンピューター（アップルコンピュータ社）に接続して
ご使用になる場合 2 ～ 3 ページをお読みください。

Windows 2000 Professional (マイクロソフト社) をインストール
したコンピューターに接続してご使用になる場合
..... 4 ページをお読みください。

ヤマハ マルチメディア アンプ RP-U100 を Macintosh コンピューターでご使用になるには

Macintosh コンピューター（アップルコンピュータ社）に接続してご使用になる方法は以下のとおりです。

このソフトウェアをご使用になる前に、使用許諾契約書（ライセンス）を必ずお読みください。

システム条件

本機とパソコンを USB ポートを使ってデジタルオーディオ接続するためのシステム条件：

USB ポートを標準搭載した Macintosh コンピューター

Mac OS 9.0.2 以降（USB driver Ver.1.4 以降）

接続とセットアップの手順

1. 取扱説明書の接続図に従って本機を接続し、電源プラグをコンセントに接続します。
2. 本機と Macintosh を付属の USB ケーブルで接続します。
3. Macintosh を起動させてから、本機の電源を入れます。

本アプリケーションのインストール方法

フォルダ「RP-U100 for Macintosh」には、簡易インストーラ「RP-U100 インストーラ」と「インストールデータ」フォルダが含まれています。簡易インストーラ「RP-U100 インストーラ」をダブルクリックして起動することにより、本アプリケーションとヘルプファイルがハードディスク上にコピーされます。

簡易インストーラを使用せずにインストールする場合は下記の説明を参照してください。

USB での接続に必要なドライバ等は Mac OS 9.0.2 以降にて標準サポートされています。

簡易インストーラからインストールされるファイル

簡易インストーラ「RP-U100 インストーラ」は、インストールデータ・フォルダ内の「RP-U100 アプリケーション」フォルダを指定の場所へコピーします。また、「RP-U100 Help」フォルダを起動ディスクのシステムフォルダ内のヘルプフォルダの中へコピーします。

簡易インストーラを使用しない場合

簡易インストーラ「RP-U100 インストーラ」を使用しないで本アプリケーションを使用する場合は、以下の作業を行ってください。

1. インストールデータ・フォルダ内の「RP-U100 アプリケーション」フォルダを任意のハードディスク内にコピーしてください。
2. インストールデータ・フォルダ内の「RP-U100 Help」フォルダを、起動ディスクのシステムフォルダの中にあるヘルプフォルダ内へコピーしてください。このヘルプファイルは、Mac ヘルプにより参照できます。

本アプリケーションの操作説明について

本アプリケーションの操作説明は全てヘルプ形式にて参照できるようになっています。本アプリケーションを起動後に表示されるメニューから、ヘルプを参照してください。

本体操作と本アプリケーションについて

本アプリケーションを起動した状態でRP-U100本体側の操作ボタンやボリュームを操作すると、アプリケーション側も自動的に表示を変更します。本アプリケーションとその他のソフトウェアが同時に画面表示された状態で、本体側を操作した場合、本アプリケーションが操作結果を画面に示す際に、同時に起動されているソフトウェアの画面表示等（例、QuickTimeの再生画面等）が一部乱れる場合があります。この場合は本アプリケーションを起動せずに、本体側で操作してください。

DVD 内蔵の Macintosh について

DVD が内蔵されている Macintosh で DVD を再生した場合、Macintosh から USB 出力されるオーディオ信号はステレオ（PCM）となります。DVD 再生アプリケーション等の設定にて Dolby Pro Logic 出力を選択しますと、RP-U100 側で Dolby Pro Logic デコード処理が行われ、サラウンド再生をお楽しみ頂くことができます。

RP-U100 を使用しての録音について

コントロールパネル内の「サウンド」にて入力装置を USB オーディオとした場合、RP-U100 が再生するサウンドを Macintosh 側のソフトウェア（例、SimpleSound 等）にて USB 経由で録音することができます。録音に関する注意事項については本体の取扱説明書を参照してください。

その他使用上のご注意

サウンドの出力先はコントロールパネルの「サウンド出力装置の選択」からは変更できません。Macintosh 内蔵のスピーカをご利用になる場合は、RP-U100 と Macintosh を接続している USB ケーブルを抜いてください。

RP-U100 を USB 接続した状態でヘッドホンをご利用になる場合は、Macintosh 側のヘッドホン端子ではなく、RP-U100 側のヘッドホン端子をご利用ください。

Macintosh の電源を入れたときに出力される起動音は、USB オーディオが有効になる前に再生されます。そのため、この起動音を USB 経由にて再生することはできません。起動音を RP-U100 から再生するためには、別にアナログ接続が必要となります。Macintosh と RP-U100 を USB 接続に加えアナログ接続することで、起動音も RP-U100 から再生できます。（セットアップパネルにて USB MIX をオンに設定すると、アナログ経由の音と USB 経由の音を、インプットセレクターの変更無しに MIX 再生することができます。）

お問い合わせ先

本アプリケーションや RP-U100 についてのお問い合わせは、本体の取扱説明書に記載されているサポート窓口までお願いいたします。

Copyright(C)1999-2000 YAMAHA CORPORATION All Rights Reserved

「RP-U100 コントロールソフトウェア」は、ヤマハ株式会社の著作物であり、「RP-U100 コントロールソフトウェア」にかかる著作権その他の権利は、ヤマハ株式会社及び各権利者に帰属します。Macintosh は、米国 Apple Computer, Inc. の登録商標です。Dolby、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーの商標です。その他記載された会社名、製品名等は、各社の登録商標もしくは商標、または弊社の商標です。

ヤマハ マルチメディアアンプ RP-U100 を Microsoft[®] Windows[®] 2000 Professional でご使用になるには

Windows 2000 Professional (マイクロソフト社) をインストールしたコンピューターに接続してご使用になる方法は以下のとおりです。

システム条件

本機とパソコンを USB ポートを使ってデジタルオーディオ接続するためのシステム条件：

Windows 2000 Professional に対応し、USB ポートを搭載したパーソナルコンピューター
Windows 2000 Professional

接続とセットアップの手順

1. 取扱説明書の接続図に従って本機を接続し、電源プラグをコンセントに接続します。
2. Windows 2000 Professional を起動させ、administrator でログインします。
3. 起動が完了したら、本機とパソコンを付属の USB ケーブルで接続し、本機の電源を入れます。
本機が自動的に認識され、デバイスドライバのインストールが開始されます。
ご使用のパソコンの環境によっては、デバイスドライバのインストールに時間がかかる場合があります。
デバイスドライバのインストールのダイアログが消えたあと、そのまま 1 ～ 2 分お待ちください。
4. デバイスドライバのインストールが完了したら、付属の CD-ROM から、アプリケーションソフトウェアを本機にインストールします。
このソフトウェアをご使用になる前に、使用許諾契約書（ライセンス）を必ずお読みください。

CD-ROM のデジタル再生指定方法

インストールが完了したら、コントロールパネルの「サウンドとマルチメディア」を開き、「ハードウェア」タブの「デバイス (D)」の中の「CD-ROM ドライブ」をダブルクリックします。
「プロパティ」タブを開いて、「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする (E)」にチェックを入れ、OK します。
再起動を行い、administrator でログインします。

使用上のご注意

本機のアプリケーションソフトウェアを起動中に、USB ケーブルの接続を外すことはおやめください。

本機は、オーディオアンプとしてチューナー等のプリセット情報等をアンプ内部に記録する仕様になっていますが、マルチクライアントには対応していません。

Microsoft、Windows は米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における登録商標です。